

平成25年第1回尾鷲市議会定例会会議録

平成25年3月6日（水曜日）

○議事日程（第4号）

平成25年3月6日（水）午前10時開議

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 一般質問

○出席議員（15名）

1 番 北 村 道 生 議 員	2 番 内 山 鉄 芳 議 員
3 番 端 無 徹 也 議 員	4 番 田 中 勲 議 員
5 番 三 林 輝 匡 議 員	6 番 神 保 美 也 議 員
7 番 南 靖 久 議 員	8 番 三 鬼 和 昭 議 員
9 番 與 谷 公 孝 議 員	10 番 大 川 真 清 議 員
11 番 濱 中 佳 芳 子 議 員	12 番 三 鬼 孝 之 議 員
13 番 高 村 泰 徳 議 員	15 番 中 垣 克 朗 議 員
16 番 真 井 紀 夫 議 員	

○欠席議員（0名）

○説明のため出席した者

市 長	副 市 長
会計管理者兼出納室長	市長公室長
総務課長	財政課長
防災危機管理室長	税務課長
市民サービス課長	福祉保健課長
環境課長	商工観光推進課長
魚まち推進課長	木のまち推進課長
建設課長	
水道部長	

尾鷲総合病院事務長
尾鷲総合病院医事課長
教 育 委 員 長
教育委員会教育総務課長
教育委員会学校教育担当調整監
監 査 委 員

尾鷲総合病院総務課長

教 育 長
教育委員会生涯学習課長

監 査 委 員 事 務 局 長

○議会事務局職員出席者

事 務 局 長
議 事 ・ 調 査 係 書 記

議 事 ・ 調 査 係 長

[開議 午前10時00分]

議長（三鬼孝之議員） おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員は15名であります。よって、会議は成立いたしております。

最初に、議長の報告ですが、お手元に配付の報告書は朗読を省略し、これより議事に入ります。

本日の議事につきましては、お手元に配付の議事日程第4号により取り進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、日程第1、「会議録署名議員の指名」を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第87条の規定により、議長において15番、中垣克朗議員、16番、真井紀夫議員を指名いたします。

次に、日程第2、昨日に引き続き一般質問を行います。

最初に、8番、三鬼和昭議員。

[8番（三鬼和昭議員）登壇]

8番（三鬼和昭議員） おはようございます。通告に従い、一般質問を行います。

私は、自身のノルマとして、年間2回の一般質問を予定しておりますので、4年間平均すると大体それぐらいの確率になるのかなというところで、今任期最後の一般質問となりますが、よろしくお願いいたします。

私の質問は、高速道路の開通を見据えたまちづくりについてという中で、中身としましては、高速道路の開通による活性策について、観光とか集客を目指してこれまで来たのかということ、そして、受け入れ態勢はできているのか、このような情報発信のあり方でいいのか、そして、道の駅ではなく、海の駅とか魚の駅ではないか。

2番目として、防災対策について、津波避難タワーはどう検討されてきているのか、尾鷲小学校から中村山公園への避難道はどうなったのか、3番目として、南海トラフ等想定される大地震による市民の避難及び外部からの救援体制について。

そして、全般的に、岩田市長のこれまでの政治姿勢について、それを織りまぜてお伺いしたいと思います。

現在工事が進められています紀勢自動車道の延伸が、今月中には紀勢大内山インターチェンジから紀北町紀伊長島区まで開通し、秋ごろには当尾鷲市への全線

が開通することや、尾鷲から熊野市までの熊野尾鷲道も整備されると伺っております。また、本年は、伊勢神宮の第62回式年遷宮が行われることから、県内への入り込み客が増加することは間違いありません。

しかしながら、そういった入り込み客が、尾鷲を初めとして東紀州へ来るとは限りませんが、当市までの高速道路の全線開通は、これまで以上に観光客等がこの地へ周遊してくる確率が高まり、町なかへ誘客するチャンスがふえるであろうと期待できます。

これまでも一般質問等を通じ、高速道路の開通を観野に入れたまちの活性化策を問うたり、幾つかの提言をしてきましたが、目前に迫った今、尾鷲市が通過点とならないためにも、改めて高速道路の開通による尾鷲市の活性化策として、何を幹として、どうされているのか、お示してください。

また、たとえ入り込み客がふえたとしても、当市は、観光であるとか、集客交流を目指した事業おこしをこれまで考えてきたのかどうなのか。

三つ目、もし考えてきたというのであれば、宿泊施設等受け入れ態勢はできているのか。それ以上に、尾鷲そのものや食、それに見どころ等、これまで万全な情報発信を行ってきたのか。いささかその点も疑問に感じます。

そういった中で、道の駅設置論議だけが先行していることから、その箱物事業についての議論が交わされており、まちづくりそのものが置き去りにされていることから、市民の皆さんの憂慮がそこにあるような気がします。もっと箱物ばかりの議論ではなく、その必要性を一から考えるべきではないでしょうか。

そこで、岩田市長の考える高速道路の開通を見据えたまちづくりとは、どういうことだったのですか。お聞かせください。

次に、防災対策についてですが、特に津波被害を想定して議論させていただくと、これまで提言させていただいたものの中には、いわゆる既存の民間施設への避難場所の確保ということでは、N T Tの快諾により社屋への避難が可能となり、一部の範囲とはいえ、大きな意義があります。

しかしながら、議会の一般質問においても、これまで御提言した津波避難タワーについてはどのような検討がされてきているのか、議会側からうかがい知ることができません。

一昨日の高齢者防災対策の質問で、多様な避難対策の話が出ていましたが、当市の海岸部には水産業が多く、また、これまで尾鷲を築かれた多くの方々が想定される津波浸水域に定住しており、尾鷲が災害に強いまちづくりを標榜するなら

ば、この津波避難タワーの設置が不可欠のように思います。

そこで、津波避難タワーの設置に対するこれまでの議論や本当に設置される気があるのかどうか、御見解をお示してください。

また、これまでに輪内中学校の校内における建設場所の変更や敷地のかさ上げ、そして、宮之上小学校の補強から全面改修工事への変更などを、この場での一般質問や生活文教常任委員会の場において、同僚議員ともども強く要望させていただき、そのような方向で整備が進んでいることに、最終的な御結論を下された岩田市長の御英断を評価したいと存じますが、もう一点、要望させていただいたものの中に、尾鷲小学校から中村山公園への児童専用の避難路の確保であります。この避難路の確保についても、市長は前向きな御答弁を再々されております。この避難路整備について、現時点でどのような議論をされているのか、そして、その方向性はどうか、御説明をしてください。

また、南海トラフで想定される大地震による大津波については、自然の猛威を否定することはできず、津波避難タワーや中村山公園への避難、そして、各自主防災組織が日ごろ訓練を通して認識している避難場所への一時避難が最も大きな防災・減災対策ですが、こういった大きな震災を想定しなくてはならない限り、被災後の復興策をも施策に入れるべきだと痛感しますが、市民の避難及び外部からの救援体制について、今後どのようにされようと御検討しているのか、お聞かせください。

今こそ、市長たる自治体のトップは、自身のまちづくりビジョンを明確に示し、そこに経済の活性化や市民の福祉の向上につながる各論を入れて、それを達成すべく努力をされるべきだと考えるのが私の首長論ですが、岩田市長は、この1期おおよそ4年、現在の政治姿勢をこれからも貫かれるのが自分の政治スタイルと思っているのかどうか、その辺もお伺いしたいと思います。これまで前問うたものとあわせて、市長自身の政治姿勢も含めて、御見解をお聞かせください。

これで壇上からの質問を終わります。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

〔市長（岩田昭人君）登壇〕

市長（岩田昭人君） 初めに、高速道路の開通による活性化策と観光、集客交流を目指しているのかにつきましては、これまで本市におきましては、第5次尾鷲市総合計画では、海業、山業をキーワードとして、あらゆる資源を活用し、磨き上げを行い、本市の魅力を集積させることで、資源の一つ一つの情報力を高める手法

により、物産振興や集客交流を図ってまいりました。

次のステップでは、これを総括した上で、わかりやすく効果の出やすい次元に特化させた取り組みを第6次尾鷲市総合計画での人づくりの観点を取り入れながら行い、幅広い分野が連動することで情報力をつけていくような仕組みづくりを行うことが不可欠であります。

こうしたことで、第5次総合計画での方向性を進化させながら、より広い分野での効果の創出を図り、第6次総合計画での産業を担う、地域を担う、次代を担う人づくりにつなげていきます。

具体的な取り組みには、庁内や分野間での議論、調整も必要となりますが、まずは食にスポットを当てた取り組みに人と情報を取り入れ、尾鷲の魅力で尾鷲に引きつけるためのより具体的な効果を創出します。尾鷲に住み続けたい、尾鷲に住んでみたい、尾鷲を訪れたいを実感できるまちづくりを進めるために、産業、教育、福祉、環境など、それぞれの分野が食を中心とした事業を進め、尾鷲市に引きつけるための求心力を高めてまいります。

具体的な一例としましては、産業、教育と連動した取り組みとして、品質の高い、新鮮でおいしい魚介類のブランド化、尾鷲の食材を生かし、ウオーキング等と組み合わせた健康をテーマとした食の開発、学校教育や食文化の伝承という側面から、尾鷲の食を知る、理解する、研究することを目的に、尾鷲の食を題材とした食育学習など、食に関する尾鷲独自の指導体制の検討、また、これらの尾鷲の食を提供できる港を中心とした食の拠点づくり、食による回廊の構築などを推し進めてまいります。

これらの事業に発信力を高めていくためには、発信だけではなく、受信することにより求められるニーズを把握するとともに、一過性のものではなく、一貫した尾鷲のイメージを創出し、尾鷲の食やおわせ人などのさまざまな事業に、情報発信を常に意識する戦略的な発信手法を構築し、尾鷲に引きつけるための求心力を高めます。この実現のため、食と人の魅力を入口とした尾鷲食と人のポータルサイトの構築など、食や人にストーリー性を持たせ、発信することで、その背景にある商品、活動を広く発信する機会を創出してまいります。

これらの取り組みを原動力として、高速道路の開通というチャンスをまちの活性化につなげ、尾鷲に引きつけるためのさまざまな施策を展開してまいります。このため、市役所内において、市長公室、商工観光推進課、魚まち推進課、木のまち推進課を中心にプロジェクトチームを設置し、推進してまいります。

次に、施設などの受け入れ態勢については、本市の集客交流の基盤整備として、ハード整備や民間活力が伴う大きな課題であります。市内の各観光施設の中でも、中核施設である夢古道おわせの充実が第一であります。本市の集客交流の拠点としての来訪者の満足度アップと施設のホスピタリティーのスキルアップの二つの視点から、夢古道の湯の休憩スペースの増設を図ります。

次に、これまでの観光受け入れ施設の現況調査の結果や事例からも、観光トイレの充実が挙げられます。これについては、平成24年度の三木里海水浴場のトイレの改修から始まり、年次計画により整備することで対応をしております。また、市内宿泊施設などの充実といった、民間経営の施設に対する整備につきましては、東紀州地域観光圏での取り組みにおいても、県に対して支援制度の創設を提案しておりますが、こうした国や県からの支援と合わせた形で、本市における制度化を考えてまいります。

次に、情報発信についてであります。これまでと今後、本市では、1、尾鷲商工会議所と尾鷲観光物産協会と共同で、平成21年度から尾鷲まるごとヤーヤ便を手がけており、尾鷲の食、文化など、地域を売り出すことを目的として、地域で頑張る生産者やまちおこしの方々を初め、旬の観光スポットやイベント情報も掲載した地域情報新聞、尾鷲がんばりよる新聞をお届けし、食を中心とした取り組みに情報を取り入れた発信をしております。

2、尾鷲観光物産協会の会員を中心に、宿泊、物販、飲食、観光ツアー、商品等をチラシ、ホームページ等により市内外に発信するほか、スマートフォン対応の市内案内アプリを開発し、観光や物産の情報発信を図ります。

3、夢古道おわせでは、ランチバイキングの提供や夢古道おわせからの全国ネットワークを活用した企画イベントの同時開催のほか、物産販売と情報発信を合わせた尾鷲コーナーの設置店舗を拡大してまいります。

4、現在、まちの駅ネットワークおわせ設立に向けて準備会議を開催するとともに、まちの魅力スポットやまちの駅の情報を盛り込んだまちなかにぎわいマップの製作を進めるなど、3月末の設立に向けて取り組んでおります。

5、尾鷲よいとこ定食の店では、前浜で揚がった地魚などを提供することで、食からのPRを行っております。

6、県が整備する首都圏営業拠点を活用した情報発信を図ってまいります。

7、私自身も情報発信が非常に重要と考えており、三日に一魚を初め、フェイスブックによる情報発信を行っており、みずからお魚市長として広告塔になり、

全国のマスコミや仲間たちの輪を広げております。

次に、現在、本市の津波避難のハード対策としましては、民間施設を津波緊急避難ビルとして指定しており、クラウンコーポ様、ホテルビオラ様、N T T尾鷲ビル様の3施設と協定を締結しております。また、津波の想定浸水域に位置する3階建て以上の公共施設8カ所に、地震自動解錠ボックスを設置しております。

このように、ハード対策は既存施設の活用を軸にしつつ、津波避難タワー等の避難施設を新たに設置することも検討しているところであります。

平成23年度から24年度にかけては、国や県による津波高の想定が複数発表され、その値が衝撃的なものであったことから、津波避難タワーの建設には多くの課題があるものと思われまます。すなわち避難タワーは、低過ぎれば意味がなく、高過ぎれば長い階段により小さなお子さんや高齢者の方、車椅子の方などが逃げづらくなることや、タワーからさらに高台への2次避難が不可能であること、また、タワー自体の高さに対応するだけの広大な敷地が必要といった点が挙げられます。ただし、ある程度の津波高なら、避難タワーは効果的な避難施設となりますので、タワーの規模については十分に検討する必要があると思われまます。

また、別の避難施設として、津波避難シェルターというものがあります。これは水に浮く構造であるため、どのような津波高にも対応でき、地上に設置することですぐに逃げ込めるといった特徴があり、検討していく価値があるものと考えております。

現在、国土交通省中部地方整備局からの助言もいただきつつ、避難施設の有効な設置箇所、設置数の検討を実施しております。避難タワーのみならず、既存施設のさらなる活用や、さまざまな施設、方法を織りまぜながら津波対策を進めてまいりたいと考えております。

次に、尾鷲小学校の中村山への避難路につきましては、平成23年8月9日に尾鷲小学校PTA及び尾鷲小学校から中村山への避難路の確保、増設に関する要望書が、平成24年10月30日には、昨年5月に立ち上げをいたしました尾鷲小学校児童・園児避難路増設委員会及び尾鷲小学校PTA、尾鷲幼稚園PTA、尾鷲小学校、尾鷲幼稚園から、尾鷲小学校敷地内からの中村山への児童園児避難階段（もしくはスロープ）の設置の要望書が出されております。

尾鷲小学校児童・園児避難路増設委員会では、工事の伴う直接避難路を市に要望するだけでなく、自分たちでやれることはやって、津波の被害から子供たちの命を確実に守る対策を進めようと、2月3日に保護者の方々により中村山の斜

面の整備が行われました。私と教育長も、ぜひ汗を流すべきだと考え、これに参加させていただきました。

市におきましても、平成25年度当初予算に、避難路基本計画策定委託料52万5,000円を計上させていただいたところであります。今後早い時期に実施設計を行い、平成26年度に本工事を行うことを検討しております。本工事は、社会資本整備総合交付金の対象事業で、現在、国に社会資本総合整備計画を提出しているところであります。補助率は2分の1で、残りにつきましては市債対象となっております。

次に、市民の避難及び外部からの救援体制についてであります。

議員がおっしゃいますように、想定されている大地震、大津波については、自分の命を守るためにすぐに避難していただくということが何よりも大切であります。そのための取り組みや訓練を日ごろから自主防災会を中心とした地域の皆様に実施していただいております。また、市としましても、その支援をさせていただいているところであります。市民の皆様には、地域での取り組みを継続して実施していただき、地域防災力の向上につなげていただきたいと思いますと思っております。

想定されているような大規模災害が発生した場合、市単独での対応は極めて困難になることが予想されます。これに対処するには、各種防災関係機関や他自治体との連携、協力体制の構築が極めて重要となります。

平成24年6月に実施した尾鷲市土砂災害総合防災訓練や12月の尾鷲市巨大津波対処関係機関合同訓練においては、広域的な防災関係機関が合同で訓練を実施し、各機関の連携をより一層強化することを目的としていました。このような訓練は以前から継続しており、本市と各種関係機関との連携、協力体制の構築が図られているものと感じております。今後もさらなる連携、協力体制の強化を進めてまいりたいと考えております。

また、県内では、三重県市町災害時応援協定により、全市町が相互に応援する協定を結んでおります。さらに、平成24年10月には、本市と福井県大野市とで独自に災害時相互応援協定を締結いたしました。同一災害で同時に被災することが考えにくいいため、災害時の相互応援・協力に関して効果的な協定であると考えております。

今回の締結により、本市における自治体間の相互応援協定は、平成17年の奈良県上北山村に続き、二つ目となりました。今後も、本市独自に、県外の自治体との連携の拡大を図ってまいります。

また、災害復旧の基礎となる、災害時の市内の道路啓開（道路を復旧しながら切り開いていくこと）については、三重県により尾鷲市内の建設業者に担当区域の割り振りがなされており、迅速な対応を図る体制が構築されております。救援部隊の受け入れ、復興活動の拠点においては、光ヶ丘の東紀州公域防災拠点が三重県により整備されており、現在議論されております道の駅については、高速道路を利用した大規模、大容量の人員、物資のハブ的施設としての救援活動拠点機能を発揮させたいと考えております。小原野地区の市有地についても、被災時における仮設住宅用地等として活用を検討してまいりたいと考えます。

議長（三鬼孝之議員） 8番、三鬼和昭議員。

8番（三鬼和昭議員） それでは、少しばかりそれぞれの中身についてお伺いいたします。

市長が、先ほどの答弁の中では、食であるとかといったのを含めて、そういったこととか、それらを行うために市内でもプロジェクトを組んでいくという前向きな御答弁をいただいたのであれなんですけれど、私は、今回質問に当たっては、道の駅論議がある中で、やはり平成11年に、尾鷲市としても議会としても、北インター、南インターということがあって、その後に東日本大震災があるわけですから、小原野地区のクローズアップも出ているんですけど、産業振興的にはやはり、多分その時代から言えば、北と南からだったら国道42号の4車線がかなり長い時期、むしろ国も整備に至らないのではないかという、若干まちづくりの期待が、そんな議論がされたと思うんですね。みんなそう思っていたと思うんです。ただ、災害というのを通したところで、トータル的なまちづくりに、産業振興だけではないということができてきました。

ただ、北と南がつながるに当たっても、約5年間ぐらいあるわけですね。道の駅議論だけでいいのかという、その間にやはり尾鷲そのものに来ていただけということを中心にやらなくてはいけないということから今回一般質問に臨んだわけなんですけれど、私が言う海の駅であるとか魚の駅というのは、道の駅みたいな箱物で言う話ではなく、尾鷲全体を、言ったら熊野古道があり、いわゆる国道42号とか高速道路を熊野街道と見立てたならば、ここを休憩地であるとか周遊地である尾鷲全体を海の駅とした考えの、施策を考えていくべきではないかと思っています。

それによってどういった箱物が必要なのか、施設が必要なのかということで、市長は先ほど、食とか、そういったものをする中でも、そういった拠点も必要に

なるということで、まず1点は、私はもうずばりいきたいと思うのは、道の駅と並行するかどうかの議論はさておいて、私の考えでは、ずっと杉田市政当時から訴えておるように、やはり尾鷲漁協近くの県有地等も含めた海岸部に、物販であるとか、その食を生かせるとか、あるいは海を展望できるか、先ほどの津波避難タワーがそれで間に合うのかどうかというところもありますけど、今の時代であれば検討の余地があるんですね。避難の津波タワーになるような、そういったものを尾鷲市はむしろ先行して、箱物の話ですけれど、設置していくほうが、まち全体の印象だとか、売り込みを含めて、外部からの印象度を高める、あるいは物販施設にいわゆる避難タワーが併設されていれば、全国からもそれが視察対象にもなって、いろんな意味のまちの入り込みをふやす条件になるには尾鷲市は海しかないんじゃないかと思うんですけど。その辺については、話がいきなり飛躍していますが、どうですか、市長。市長としては。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 全国にも海の駅というのがかなりあるようでありまして、その中でも、やっぱり地元漁港でとれた新鮮な魚とか干物とか、そういったものがかなり人気になっておるようでありまして、そこに併設されたレストランなんかも随分人気が出ているというふうなことは聞いております。

私が、高速道路を通じてやってくる来訪者を、道の駅で一旦とまっていたいただいて、いろいろな情報を提供すると同時に、あわせて、やはりまちづくりを、議員がおっしゃるように進めていかなければ、道の駅を単純につくるだけでは何も意味がないということでもありますので、あわせて町なかのにぎわいもつくっていかんなんですし、今、尾鷲港産地協議会ではさまざまな取り組みをやっていただいております。マグロの員外船誘致、あるいはマグロの独自のほえ縄漁法とか、そういったものをやっていただいております。その中で、食による取り組みなんかも入っております。

尾鷲は、私は議員が言うように、海というよりも、要するに魚とかいった食というのが随分な魅力であると思っていますので、尾鷲全体を海の駅的な構想で進めていくということが大事だと思っています。実際に港のところに道の駅をつくれるかどうかという話はこれからの検討でありますけれども、考え方としては私も全く同様の考え方で、尾鷲市全体を海の駅、魚の駅、食の駅といったような考え方で進めていきたいというふうに思っております。

議長（三鬼孝之議員） 8番、三鬼和昭議員。

8 番（三鬼和昭議員） ありがとうございます。

道の駅論議があるので、私も発言しなくちゃいけないので、道の駅と言いますけれど、私は根底には、やはり将来を考えると、まちの経済的な意味も含めた活性化があって、初めて道の駅であるとかそういったのをしていくとか、道の駅が全体的な物販とかを担えるようなものであれば別ですけれど、尾鷲市にとってそれは難しいように思うので。

それと、市長は、建物がどうかといっても、そういった戦略をするのであれば、私が先ほど言いましたように漁協とも協力体制をとりながら、そういったところにやはり拠点となるような施設は欠かせないと思うんですけれど、いま一度そういった、今すぐに建てるとか云々は別ですけれど、その必要性についてはどうですか。それで、それは建てるのか建てないか、検討しなくてはいけないとかという考えはございませんか。その辺を御答弁ください。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 産地協議会で港周辺の施設整備についてはいろいろ議論されておりまして、今年度につきましては製氷・貯氷施設、それから、物揚げ場におけるクレーン、これを設置するというので、市としても支援をさせていただきました。

当初の産地協議会の計画の中では、尾鷲の魚を利用した食堂とか、そういった計画も入っておりますので、ぜひ私としては、そういった計画を進めていただきたい、それに対して、市としても最大限のバックアップをさせていただきたいというふうに思っております。

議長（三鬼孝之議員） 8 番、三鬼和昭議員。

8 番（三鬼和昭議員） そういうイメージ的なものは御理解していただけたとは思いますが、私はこれまで尾鷲の魚と言われるブリ、ことしはちょっとにぎわいが聞こえていないんですけれど、それと年中味わうことができる、尾鷲のこれも特産だと思うマダイ、そして、時期になればカツオ、漁協さんが力を入れてくれておりますので、近海のマグロであるとかというのがあって、ここへ来て地元遠洋漁船所有者の船が、必ず尾鷲漁協に水揚げをするということを確認された漁に出ているわけですね。そのほかにアオリイカとか、細かいと言ったらあれだけ、地でとれるものもあります。

これだけの魚種というんですか、これ、全国、特に三重県なんかは、それは市場でかき集めてきたら別ですけれど、ここに水揚げされるということは、三重県

でもそんなにないし、全国でもこれぐらいの目玉の魚が水揚げされるということはないと思うので、私はむしろ、当然尾鷲湾というか、尾鷲港を利用しているのは、中部電力さんもございますから、水産だけではありませんけれど、やはり市とですね、やはりこれは、きのう遠洋マグロ船の長久丸さんの了解を得ましたので発言もしますが、これは三重県ブランド、尾鷲ブランドになるわけですね、この遠洋マグロが。はえ縄でしたものを、アルコールスラリーアイス冷凍装置のものを試食しても、これまでのものよりかなりいいと。自信ありますよ、自慢できるものができますよということで、経営者のほうも、できたら尾鷲に流通とかそういったものができるのであれば、もともと三重県尾鷲市三木浦が基地ですから、ほかの船も合わせて検討の余地は十分あるということで。

やはり私は、そういったことを踏まえると、よくあちこちで駅前再開発とか言っておるように、やはり尾鷲港の再開発のプロジェクトを県にも働きかけて、民間の方にも働きかけてするべきじゃないかなと思うんです。これぐらいの魚種があって、勝浦なんかマグロだけでこういう状態です。みんな、マグロだったら勝浦というような形で。でもスタートは、商社とかそういったものを含めて、流通についてはなかったと思うんです。でも、それを構築することによって水揚げがされる、流通が生まれるということになっていくのではないかな。

私は、尾鷲市も、道路が輸送、運送の部分で便利さが出てきますから、もっとそういった大きな視点になって、県にも働きかけ、民間の専門的なところにも働きかけ、やはり尾鷲港の再開発というか、商業港としての再開発をやっぱりやるべきじゃないかと思うんですけれど、そういった考えについて、私の唐突な、これは提言かもわかりませんが、でも、ふだんから魚市長と言われてたりとか、尾鷲の魚の流通とか、魚がどういうふうになるということを十分御理解されて市長をされていると思うので、こういったことは唐突な質問でも十分答えていただけたらと思うんですが。いかがですか、そういった考えは。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） おっしゃられるように尾鷲は、数量は多くないですが、魚種としては随分多いのではないかなと。一つには沖合底びきがあるということもありまして、魚種としては全国に誇れるのではないかなというふうに私は思っております。

そして、ここに来て、近海でのマグロはえ縄に取り組む事業者も出てきていますし、それから、先ほど議員が言われましたようなスラリーアイス、それを利用

したマグロの保存の取り組みをやっている市内の船主もみえます。私も実際、この新しい貯蔵方法によるマグロを食べさせていただきましたが、全然違います。だからこれについては、ぜひ今新しく船をつくってマグロはえ縄にかかっていただく事業者のマグロとあわせて、何とか尾鷲マグロというような形で、尾鷲のブランド化に取り組んでいきたいなというふうにとっております。

実は昨年、『家庭画報』という雑誌で、三重県が尾鷲のエビ特集をしてくれた。この辺のエビが、2ページだったか3ページだったかにわたって、三重県がお金を提供してくれて、掲載してくれました。このときはエビが中心だったんですけども、知事には私も、エビでちょっと一遍売り出したいというふうに言っておりますし、ぜひやってくれと知事のほうも応援を約束してくれておりますので、これはただ単にソフト的な話ですけども、ハードも含めて、一度根本的に県にも働きかけをしていきたいというふうに思っております。

尾鷲港は港湾でありますので、県管理であります。我々もやれることはありますけれども、根本的な話になると県の力をかりなければならないというふうに思っています。これは建設関係だけじゃなしに、水産関連の組織にも含めて、ぜひ我々も食として頑張っていきたいので、港周辺の開発については協力を願いたいというふうな要望をさせていただきたい。現に三木浦の新しい貯蔵、スラリーアイスによるあれは、水産関係の県の御尽力もあったというふうに聞いております。そういった要望を今後も引き続き続けていきたいと思っています。

議長（三鬼孝之議員） 8番、三鬼和昭議員。

8番（三鬼和昭議員） 産業振興の中に、市長、先ほど言うたようにブランド化であるとかをやっておる方を、1次産業を強化していくというのは一つの考え方ですけど、やっぱり今の時代行政は、私、経験から、清水であるとか静岡のマグロの流通のやり方とか、市場のあれというのも経験があるんですけど、やはり今回、長久丸さんですけど、もうかる漁業創設支援事業って、国も1次産業に力を入れなくてはいけないという形でやられた。初めてですね、1次産業にこういった補助がつくことは。条件があって、そのかわりその条件とは尾鷲にとっても有利な条件で、三重県にとっても。

行政がこれからこういったものを広げていくといたら、やっぱり流通であるとかそういったことをすることによって、大きな経済が動く。今、一つ市長が言われたように、エビとかそういった既存の事業者であるとか加工業者の範疇のこともやらなくちゃいけないですけど、こういったマグロであるとか、もう一遍近

海のマグロについても地元の会社が船を新造しておるという状況があつて、全然これまでと考えの違う民間が、動いてきたわけ、市内で。これまでだったら大型遠洋漁船のマグロ船でも、つくっても清水の話か静岡の話かというようなあんばいでしたけど、これも尾鷲の話でしょう。でも、それをやっぱり次の尾鷲の活性化策に生かさない。

市長が言われておるように、私がなぜ市長の政治姿勢を聞いたかって、市長は確かに今のエビの話にしても、いろいろないいことをたくさんやろうとしているのはわかるんですけど、じゃ、尾鷲市は何を主体にして産業おこしをしていくかという大きな幹について、いま一つ市民の方も、私もちょっと、やっておることはあるけど、じゃ、どこを目指しているのかというのを、市長は積み上げた上でここを目指しますと言うのか、私はそう受けとれるからこそ、総合計画もそのように理解するんですけど、ちょっとそれはだめだと思ふんです、市長でやる以上は。今、言ったように。

だから、私は県ともよく、地元の民間の方とも、そういったような方とも、商社なんかも関係するのかな、大きな、これを経済が動くような、尾鷲港を中心とした再開発のプロジェクトを組んでやはりやるべきだと。尾鷲市はもうそれしかないんじゃないかと。

そういった中で、それをやれば、山の木もヒノキもみんな生きてくるということですし、まちの小さいといったものも生きてくるということですから、そういった、私は思うので、今回提言ともども、実際のことも踏まえて発言しているんですけど、いま一度、市長はそういったことに取り組む気があるのか、県にエビとかそういう、一つ一つ考えるのでなしに、大きな意味のそういったプロジェクトを組んでいくとか。これは大きいですよ。マグロであるとかブリであるとかタイであるとか、これが地場産品なんです。尾鷲の地場産品として扱ってやる事業なんです。それで、市場も大きいということがあるので、やはりそれはぜひ考えるべきだと思ふんですけど、それについて、どうですか、市長。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） おっしゃられるように、例えばマグロが尾鷲で水揚げされます、このマグロは、ほかのマグロと違いますという話ですね。そういった中で、これは、マグロの水揚げがあると、それは生食だけの話じゃありません。当然尾鷲の飲食店の皆さんも、このマグロを使っていろんな食べ物、定食とかいろいろなものをつくってもらうということは当たり前の話でありますけども、あわせて、こ

のすぐれたマグロをどう加工していただくのか、あるいはどう流通していただくのか、こういったことを含めて、やはり大きな展開をしていく必要があるんじゃないかと思っております。

今回、我々が食に関してプロジェクトチームを組んでやっていこうという決意はそこにあるわけでありまして、個々の積み上げはもちろん大事でありますけども、大きな目指すものとしては、やはり尾鷲は食で売ろうと。食といえば公設の魚もありますし、いろんな食がありますけれども、それをキャッチフレーズにして売っていこうという中で、それは、もちろん流通に関してもいろんな大きな計画の中でやっていきたい。

現在、地道にやっていただいたもので、東京駅の構内にもこれから採用されようといった動きも出てきております。そういった動きも踏まえながら、さらに大きな視点でプロジェクトチームの中で考えていきたい。そのためには、国の力もかりなきゃなりませんし、県の力もおかりしたいというふうに思っております。

議長（三鬼孝之議員） 8番、三鬼和昭議員。

8番（三鬼和昭議員） ほかの質問もありますのであれですけど、やはりこういった話は県にもお話しして、県も一緒になっていただいて、考えてくださいよ。やはり大きな核がなかったら、市長が今いっぱい言われたこと、何も否定しませんよ。東京駅のことエビのことも、そういったことも一切私は否定しませんけど、それは私の言う各論にしかすぎないんです。

もう少しやはり全体的に、魚食でいくのであれば、こういったマグロが地場産品になるんですよ。ブリが地場産品ですよ。だからこのインパクトは大きいと思うんです。これまでのブリとかマダイとかカツオに対して、近海のマグロもありましたけど、遠洋漁船のマグロ、これが地場産品であるわけですから、そういった考えをしていただきたい。これは要望しておきます。

それから、私は、細かいこともいろいろと挙げてきたんですけど、例えば着地型旅行商品とかがって、関連して質疑もしておるわけですけど、やはりトータルの施策を、一貫性を持たなくては、じゃ、須賀利の巡航船がこういったことをやるんだったら、1年ぐらいカウントダウンして、この前も出ていましたけど、「千年の愉楽」であるとか、ふるさと100選に選ばれておるんですから、巡航船も1年ぐらいのカウントダウンで、須賀利巡航船と須賀利を生かしながらやっていくとか、そういったことも、私は施策に一貫性がないといけません。片方ではそれなのになっている、トイレも今話していましたが、それ、引き続

き三木里だけですね。これは評価はしますけれど、引き続き、じゃ、入り込み客を考えると、まちの駅も言っていましたけど、全体的なこともしていかなくちやいけない。

それともう一つ、私は、市のホームページも早く変えるべきだと言っているし、今、アプリを開発すると言っていますね、市長の所信表明に入っていますけど。じゃ、市全体のこれまでの情報発信の仕方は何だったんですか。

これもネットなんかを見ると、今の、スマートフォンとかタブレットの時代が来ると思います。大学などもタブレットで授業を、ゼミなんかを受けてやりますから、そういった意味で必ず来ますから、ここにスマホ専用のアプリというのが表現であると。

じゃ、もうほかの自治体なんかは、ホームページにくっつけて、各課であるとか事業によって、フェイスブック、これも、フェイスブックもスマホのアプリでは一番広がっておるのの一つだと思うんです。これをもうほかはやっているんですよ。尾鷲市なんか、どこを見たって何もありませんよ。ホームページだっけ見にくいですから。

だから、もっと実践をやる。そのためには、職員の方の、そういったものを使えるとか、ソフトの勉強をする、講師を呼んでそこから始めないと、いくらつくるとか云々と言っても無理なんじゃないですか。そういった庁内の、市役所全体として取り組む姿勢というんですか、それが必要じゃないですか。私はその辺をお伺いしたい。

やはり情報発信なんかも、私もテレビを見ておって、いろいろヒントがあって、情報発信をする中でね。この前尾鷲で講演した方が、ヤーヤ便の、あれはあの市長のキャラクターそのものでいいと。多分、言葉は悪いかわかりませんが、高木ブー風に言っていました、ブーさん風にね。それはいいと。

もう一つ、テレビを見ていたら、くまモンはどこで仕事をしているか。今、一番のぬいぐるみキャラクターですけど、どこで仕事をしているかということで、問題がありました。あれ、熊本で仕事をしているんじゃないんですね。大阪でしているんですよ。大阪で、新幹線が鹿児島まで行くので、通過点になったらあかんということで、くまモンの仕事先は大阪なんです。赴任先は大阪なの。

各自治体がそういった戦略を通してやっているのに、果たして尾鷲がそのようにやっておるのか。情報発信すら、私とか南議員とか、ほかの議員もおるけど、個人的に議会活動とかもしておる、フェイスブックであるとかブログがあります

けど、私はむしろそちらのほうが、事によってはアクセスが多いんじゃないかなと思う。それじゃだめだと思うんですね。やはり僕ら自体も、行政にこういうのが載っていますというのを拾うような体制をとらなくちゃいけないと思うんです。

もう時間がないので要望が多いですけど、私はその辺もう一遍、同じようにプロジェクトを組むのであったら、一貫してやってほしいと思うんですけど、その辺はいかがですか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 情報発信の大切さというのは私も痛感してしまっていて、私もフェイスブックで三つのシリーズを今、展開しております。高木ブーに似ていると言われましたけど、そんなもの、私もなりふり構っておりませんので、尾鷲のためになるんだったら何でもやるというふうに思っております。

ただ、あらゆる情報媒体を使うということは大事でありますけども、その前にやはり一番大事なものは、尾鷲を伝えるという思いが、みんながどれだけ持っているかということでありまして、尾鷲をどう伝えるのか、尾鷲をどうみんなに知ってもらうのか、そのことをしようと思ったら、やはり一定の、これは毎日が一番望ましいわけですが、毎日更新した情報を提供するということが一番大事であります。これはフェイスブックに限らず、ホームページでも、毎日更新するものがあれば、必ず見てもらえると思います。

だから、恐らく25年度には、こういったホームページ等も含めて、情報発信のやり方は見直しをします。そういった中で、やはり一番大事なものは尾鷲を伝える思いというふうに思っておりますので、職員におきましては、もちろん市のホームページもそうですが、個人的にもぜひ尾鷲をPRするような動きをしていただきたいというふうに思っております。

議長（三鬼孝之議員） 8番、三鬼和昭議員。

8番（三鬼和昭議員） 情報発信については、スマートフォンであるとか、機器とかそういうことについてはすぐれたものが、自分らが考えるよりすぐれたものが、世界中の頭のいい人がつくってはりますので、それを生かせるか生かせないかは職員の資質の問題と市長の方針だと思うんです。その辺はやっぱり庁内で、全体的な一貫性を持って取り組んでほしい。これは、防災でも何でも一緒です。

引き続き防災なんですけれど、小学校については、私も尾鷲小学校については後悔しておる部分があって、東日本大震災の後に視察に行ったところ、前にも一般質問で言いましたように、静岡であるとか清水なんかその辺は、学校が防災

施設であるという考え方で学校をつくっていますというので、ちょっと前後したので、ああいった木造とかになった中では、やっぱりこの浸水域のことを考えると、中村山へ、幼稚園もありますし、小学校低学年もあるわけですから、逃げ方、ソフトについては、大きい児童がそういったのを見つけてくれると思うんですけど、ぜひいろいろな形で、幾つもの、中村山へ逃げる、小学校から直通に逃げる道をやってほしい。教育委員会も、返事は要りませんが、ぜひその辺を真剣に取り組んでいただきたいと思います。

もう一点、私は津波を思うときに、防災タワーなんかも、保育園の質疑をした中では、例えば第三保育園跡であれば、あそこは8メートルか9メートルぐらいあるのかね、もしそこが移転するようであれば、そういったところへ避難タワーをすれば、仮に平地に建てるよかもかなり高いものが建てられるという可能性も出てくるわけですから、施策として一貫性を持った検討を望みたいと思っています。

もう一点は、市長はきのうの質問でも、災害からは自助が一番大事なんだ、自分を助ける自助が大事で、自助、共助、公助かな、持論だと私は理解しました。じゃ、行政が一番早い道で、自助をもう一つバックアップしてやるのは、やはり情報の伝達だと思うんですね。今、エリアワンセグというのが出てきましたので、そういった中で、自助が大事だといって、今の防災無線が余り、聞こえが悪いという中で、そういった中でエリアワンセグ、まだもう少しどこまで使えるかという議論は必要かと思うんですけど、事防災に関しては、全世帯へやはり配布しなくちゃいけないんですね。全世帯へ配布するというのが考えにあるのか、それで、それは無料ででも配布するということで進めておるのかどうか、その辺についてお聞かせください。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 東日本大震災で、情報伝達の大切さというのが物すごくクローズアップされたわけですので、当然、大震災、津波になれば停電ということも考えられますし、そういった中で、市民の皆さんにどのように情報伝達をさせてもらうのかということが大事であります。そういったことを考えると、全戸配布が基本かなとは思いますが、ただし、財政的な問題もありますので、今後、検討委員会をつくらせていただいて、その中で、配布方法、あるいは、じゃ、どういう放送網をするのかといったことも含めて、検討委員会の中で議論させていただきたい。

私の思いとしては全戸配布、無料配布をしたいのはやまやまでありますけども、しかし、結果的には、どのような形になるかはこれからの議論になってくるんですが、私の思いとしてはそういう思いであります。

議長（三鬼孝之議員） 8番、三鬼和昭議員。

8番（三鬼和昭議員） 私も、道の駅の防災救援に対する、そういった意味の防災拠点という考え方には、東日本を視察した話を聞いている中では、反対もしませんし、道の駅も。ただ、そういったところにはフルインターになるんかという話が出てきますよね。それと同時に、所信表明でも小原野が出てきました。小原野といっても、じゃ、小原野へ高速道路から入り込める道路ができるんかどうかっていう議論もなってくると思うんですね。

それはまた今後議論をさせていただくにしましても、例えば今、財政的な、耐震であるとかいろいろしておる中で、小原野に市長がこの前とりあえずと言ったけど、以前に市が売却した電気会社だったか、何かの跡があって、ああいった施設を、そんなに大きな金額は要らないと思うんですけど、一応求めて、倉庫にもなるし、ある意味の防災的な整備をして構えておくとかいうか。大きな絵を描くのは、国の補助とか、そういうものも議論しなくちゃいけないと思うんですけどね。そういったことの考えはないんですか。計画的なものはないんですか。その辺についてお聞かせください。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 小原野については今後の議論でありますけども、しかし、小原野については、市有地だけじゃなしに、周辺の山林とかそういったものも含めて、今、調査をするように担当には言っておりますので、そういった中で、どういうことができるのかという話をこれから議論させていただきたいと。

議長（三鬼孝之議員） 8番、三鬼和昭議員。

8番（三鬼和昭議員） 防災については、避難タワーもこれから検討されるということで、ぜひやるのであれば、先ほど浜方へ物産施設をつくる時に防災タワーという案も提案させていただきましたし、第三保育園のところであるとか、ほかの地域も民有地も含めて、やっぱりもっと我々にもわかりやすい、市民の方にもわかりやすい、できるんかできやんかという期待だけ持たせるようなことではなくしてほしいのと、尾鷲小学校については、どんな形になるか、私は初め、陸橋ぐらいやるぐらい、市長はやってくれるんかいなと期待を持ったぐらいの避難道に関することですので、やっていただきたいと思います。

小原野についても、いろいろな角度で考えると言っていましたので、私はああいった、もう全然使わずにいますし、どれぐらいのものかというのはちょっとわかりませんが、あって、土地なんかも整備しておるので、おもしろい倉庫も全然ないとか、いろんな手狭になっておる中で、海岸部にいろいろ置いてあるものも含めて、緊急時にはすぐに活用できるという意味では、そんなに費用をかけずに検討できるのではないかなとふと思いましたので、検討していただきたいと。

最後に、市長、道の駅ではなく、市長の政治姿勢を聞きたいと質問にあると思うんですけど、市長は防災協定をした大野市のホームページなんか見たことがありますか。

(「あります」と呼ぶ者あり)

8番(三鬼和昭議員) そこには、越前まると道の駅ビジョンとあって、道の駅をつくるに当たっても、あそこは高速道路は来ていませんよね、北陸自動車道と、それから中部から抜ける東海北陸道かな、高山のほうへ抜けておる、その間に挟まれているということで、こういった取り組みには、休憩施設であるとか情報発信施設、地域の連携機能とかいうのを、そこは何をするかということだけれど、でもこのビジョンをつくるのに市民や地域、それから各種団体、企業、行政が一体となって、こういったまちづくりをしましょうと、ひいてはその核となる道の駅が要りますよ、どこどこに要りますよって、やっぱり手順というのか、今回、神保副議長がよく、手順がきちつとなっているんかという言葉を使うんですけど、やはりこういった手順でまちづくりをしなくちゃ、じゃ、今のまちづくりの活性がどこまで行っておるんかということも含めて、後に1次産業も含めてどこまで尾鷲の事業を活性させていくのかということの上で、道の駅とかいろいろなものの議論をするようにしていただかないと、それは議員と議会でやったらいいじゃないか、議会が市民に聞いてこいと言うたから聞きに来たという話ではなく、これは市長と議会と、これは向かい合って、真正面からやるようなやり方。でも、こういった手順をきちつとして、道の駅の話が出てきたというので議論するとか、私は副市長にも、場所選定とか、そんなナンセンスなことをしたらと批判をさせていただきましたように、もっと市民の人にわかりやすい行政をしなくちゃいけないので、そういうのをとりましたので、よろしくをお願いします。

じゃ、もうこれで終わります。

議長(三鬼孝之議員) ここで10分間休憩とします。

[休憩 午前11時01分]

〔再開 午前 11 時 10 分〕

議長（三鬼孝之議員） 休憩前に引き続き一般質問を行います。

次に、4 番、田中勲議員。

〔4 番（田中勲議員）登壇〕

4 番（田中勲議員） いよいよ春めいてまいりました。

與谷議員、神保議員、本当に御苦労さまでございました。この場をおかりして、恐縮ではございますが、一言御礼を申し上げます。

それでは、通告に従い一般質問に入らせていただきたいと思います。

まず、市長に、道の駅についての決意のほどをお伺いいたします。

今回、道の駅をテーマに、市民の皆様の是非を問う市政懇談会が開催されました。各会場において賛否両論、活発な意見が出され、時には激しい場面も見られましたが、総じて道の駅に賛同する市民の声が大勢であったかに見受けられました。そう遠くない将来、北と南がつながり、そのとき尾鷲に道の駅がなかったなら、後悔するどころか、尾鷲の過疎化に一層の拍車がかかり、より衰退していくことは、火を見るより明らかであります。

市長は、フルインターによる道の駅に強い決意を表明されました。一刻も早く市民の意見を集約され、市としての具体的な南インターの全体像をお示ししていただきたいと思います。また、副市長におかれましては、オアシスのようなものと表現されております。大災害時、全国から集まってくる大量の車や人、物資、それらを収容するには、現在のあの石切り場全体が必要不可欠であり、そうあってこそ、初めてそれらしい空間ができるのではないのでしょうか。その点を強く国に要望していただきたいと思います。

何はともあれ、市長、副市長にとりましては、これからの正念場であります。決してくじけることなく、市と市民のために、国はもとより、地権者に対しても、腰を七重八重に折り、頭を地につけるつもりで頑張っていただきたいと思います。例えは悪かろうと思いますが、須弥山を駆け上る阿修羅のごとくにであります。

次に、現在、尾鷲市の65歳以上の高齢者人口は7,562人で、日本は今、世界一の高齢化社会であり、今後は超高齢化社会に突入することは間違いありません。尾鷲の現代の高齢化率は37%で、日本全体の24.5%の10年先を行っているのであります。尾鷲市の高齢者7,562人を今後どうしていくのか、尾鷲市として重要な問題であります。せめて尾鷲市の人口の6,000人の方々が、安心安全に暮らしていけるまちづくりを今からしていかなければなりません。

まず、そこで、尾鷲総合病院の役割はますます重要となります。病気の治療で入院されている患者さんが、治療を終え、家に帰るなり介護施設に移るなりの準備期間として、療養病棟が大きな役割を担っております。しかしながら、療養病棟も五十数床しかなく、これからさらにふえるであろう高齢者の受け皿としては心配であります。出張所地区では階段と坂道が多く、高齢者の方々にとっては、短期間のリハビリだけではなかなか、家に帰りもとの生活を維持することは難しいのが現状であります。療養病棟がふえれば、少なからず安心安全な療養も受けられましょう。

そこで、現在の病棟の中で、療養病床をこれ以上ふやすことは難しいことから、昔、隔離病棟として使用していたところに、自前のヒノキ材を使って間仕切りをし、明るい空間を増設してはどうでしょうか。しかしながら、この提案はあくまでも耐震化が前提であります。

次に、市は、今後爆発的にふえるであろう要介護者たちが、生き生きと暮らしていける施設を率先してつくっていくべきであります。現在の介護施設の受け入れも限界があり、また、介護度1、2の人たちは、在宅介護となっております。在宅介護は、日々の生活の中で、ひとり身であれ、夫婦2人の老老介護の身であれ、並大抵のことではなく、厳しく、孤独であろうかと思えます。これらの人たちが地域の人たちの支えの中で安心して暮らしていける、療養病棟の延長上の施設として、廃校を再利用した施設の充実があらうかと思えます。それらを自前の市有林材で間仕切りし、あるいは改築してはどうでしょうか。

また、一方、1万坪の小原野の市有地を開発し、尾鷲材を使ったバリアフリー化した、お年寄りにも優しい一戸建て住宅群をまずは一からつくっていき、将来大きなまちにしていったらどうでしょうか。さすれば、全国の評判となり、リタイアした高齢者がこの尾鷲の地に静かな環境を求め、一挙に押し寄せてくることはすまいか、そのことによりあらゆる仕事やサービスが生まれ、若者のふるさと離れにブレーキがかかり、人口減少の歯どめにもなりましょう。今こそ市長は、その第一歩を踏み出すべきであります。

次に、サツキマスの今後の取り組みについてお伺いいたします。

古江のアクアステーションにおけるサツキマスの実証実験は成功であったと聞いております。このことは私たちに、海洋深層水事業の将来にとってまたとない明るい希望を予感させるものです。幻の魚サツキマスが古江で加工され、全国展開されたならば、今まで尾鷲のお荷物、厄介者と言われて続けてきた海洋深層水

事業にも、やっと明るい春がめぐってこようと言えましょう。いつの日か、ああ、よかった、よくやったと皆で喜び合える日が来ることを信じずにはおられません。そして、いつか、大きな幾つもの水槽に大量のサツキマスが泳ぐ姿を見たいものであります。その後の進捗状況をお聞かせください。

次に、災害時のアマチュア無線の活用についてお尋ねします。

尾鷲市では、エリアワンセグや無線LANなど、最先端の無線システムのネットワーク化の構築に着々と取り組まれております。無線と言えば、今まで一部の人たちの趣味の領域だとばかり思っておりました。アマチュア無線は、携帯電話のように基地局を介さず、無線機同士で直接話ができ、災害時に有効活用できる通信手段として活用され、一昨年の中日本大震災では、孤立した岩手県山田町のアマチュアの無線家が無線で外部に連絡をし、救助されたそうであります。それ以降、各地でアマチュア無線が再注目され、自治会などでも、集団で免許を取得する地区が出てきたそうです。

三重県では、津市、鈴鹿市、尾鷲市など11の市と町が各地の無線クラブと災害時応援協定を結び、防災訓練にも参加しており、また、隣の熊野市では、66の自主防災会があり、その中に60人の有資格者がおるそうです。各自主防災会に1人の割合で配置していくそうで、防災会長の一筆さえあれば、試験に係る費用2万2,750円の全額を市が負担するそうであります。

尾鷲市には78の自主防災会があり、災害時、アマチュア無線の活用を広く行き渡らせるためにも、2分の1の補助でも大変な広がり期待できると思われませんが、いかがでしょうか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

〔市長（岩田昭人君）登壇〕

市長（岩田昭人君） まず、道の駅につきましては、市政懇談会において市民の皆さんに道の駅の考え方を示し、皆さんからは貴重な御意見を頂戴することができたことは、事業を推進していく上で非常に有意義でありました。市政懇談会では、尾鷲市を取り巻く環境の変化や防災などの視点から、道の駅の必要性を、道の駅の機能や地理的条件などから設置場所を、また、設置に向けた今後の事業展開を説明させていただきました。設置について賛成していただいた方がおみえになる一方で、設置後の経営などに関して不安を唱える方もおみえになりましたが、私どもの説明や質疑応答により、一定程度、道の駅の設置に向けて御理解いただけたものではないかと考えております。

道の駅の設置に向けた今後の取り組みは一朝一夕に進むものではなく、課題も多く存在しますが、市民、議会はもとより、関係機関と双方向に情報の共有を行い、5年後、10年後の尾鷲の状況をできるだけ鮮明にイメージし、今何ができるか、今何をすべきかを考え、行動しなくてはなりません。高速道路の延伸が進む本地域においては、まさに今が正念場であり、未来への投資を議論すべきときであると思っております。

次に、療養病棟についての御質問にお答えします。

療養病棟については、今後一層その役割は重要になってくると私も認識しております。

御提案の旧隔離病舎の利用についてであります。旧隔離病舎は、建設から40年以上経過しており、建物の改修に加え、建物設備が老朽化していることから、給排水、電気設備などインフラ設備の更新、医療設備として監視設備、医療ガス設備などの更新、その他部屋の改装、ナースステーションの新設など多岐にわたり、再利用は非常に難しいと考えます。

次に、大規模遊休地となっている小原野地区につきましては、さまざまな課題がありますが、周辺環境と一体的な土地の有効利用について検討する必要があります。昨日も答弁させていただきましたが、被災時における仮設用住宅の建設用地への利活用といった防災機能を検討している段階ですので、今のところ一戸建て市営住宅を建設する構想にまでは難しいと思っております。

次に、海洋深層水による陸上養殖事業についてであります。

この事業は平成21年度から尾鷲市商工会議所を委託先として、民間企業とも協同しながら、事業化に向けた取り組みを進めてまいりました。これまで取り組んできたハバノリ、アワビ、サツキマスなどの陸上養殖対象種では、海洋深層水による良好な養殖結果が出ていることから、現在、陸上養殖を本格的に事業化させるべく、立地の規模を含め、事業者側において事業計画を検討いただいております。

本市といたしましても、これまで取り組んできた実証試験養殖事業の成果も踏まえながら、事業化に向けて積極的な支援を行い、事業者の立地を実現させ、これに伴う付加価値の高い加工品の生産、販売等にも結びつけ、海洋深層水の新たな事業創出と6次産業化を図りながら、事業・企業誘致につなげてまいります。

次に、災害時のアマチュア無線の活用についてであります。

議員がおっしゃいますように、本市はアマチュア無線クラブである尾鷲ロール

コールクラブと災害時非常無線通信の協力に関する協定を平成19年3月に締結しております。会員、現在29名おられますが、会員の皆様には防災訓練にも参加していただいております。災害時の非常通信について大変心強く感じております。

本市では、災害時の通信手段として、孤立予想地区には、防災行政無線、アンサーバックシステムを整備し、また、各避難所や防災関係機関には、無線LANを利用したIP電話、災害監視カメラによる情報通信システムを構築しております。さらには、衛星電話の配備、エリアワンセグの整備に向けた検討を行うなど、通信ルートの多重化を図っております。

このような通信ルートは、多数用意されていることが望ましいことから、アマチュア無線も重要な、そして、有効な通信手段の一つであると考えております。アマチュア無線の広がりや、地域の災害対応力の強化につながりますので、現在運用している、1組織当たり10万円を限度に補助する地域防災力向上補助金を弾力的に活用するなどの検討を行ってまいりたいと思っております。

議長（三鬼孝之議員） 4番、田中勲議員。

4番（田中勲議員） ありがとうございます。

それでは、最初の道の駅のことについてから、順次お尋ねしていきたいと思っております。

私も、この15会場の市政懇談会の中で14会場を傍聴させていただきました。その中で市長は、国と国交省には命をかけるつもりでやらせてもらいたいと申されておりましたが、今もその気持ちにお変わりございませんか。その点、お聞きいたしたいと思っております。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 市政懇談会でいろんな意見を聞かせていただきました。これから議会の皆様にも相談しながら、見きわめていきたいと思っております。

議長（三鬼孝之議員） 4番、田中勲議員。

4番（田中勲議員） それで、その中のある会場でのことですが、市民の方が、シミュレーション、すなわち南インターの道の駅全体が見えにくいと、見えてこないとおっしゃられておりました。国の防災拠点と一体化とする道の駅の広さを問題にされているという点も、私は思われました。それで、それは非常に重要なことだと、その場で思いましたのですけれど、その広さというのをどう考えておられるのかなというのを、今の時点でわかる範囲があればですよ、わからない、これは国との一体型であって、あるいは今は今後のことであるという答えであれ

ばそれでよろしいんですけど、その広さを私もちょっと問題にしたいんですけど。どうでしょう、そういう想定はございますか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 単純に、議員がおっしゃられた防災機能に関して言わせていただければ、これはもう広いにこしたことはないかなと。全国から集まってきていただく応援部隊の皆さん、それから資機材、それから応援物資、こういったことを考えれば、広ければ広いにこしたことはないなというふうな思いはあります。

議長（三鬼孝之議員） 4番、田中勲議員。

4番（田中勲議員） 私もそう思う、それで、できるだけ広いほうがええなど、もちろん市長のお考えもそのとおりだと思います。

例えば、これはちょっと調べてきたものですけど、申しわけないですが、道の駅マンボウ、これが物販と駐車場を合わせたのが3,000平米、それから防災駐車場が6,500平米、合わせて9,500平米なんです。それから、熊野市の金山の防災センターのありますところの敷地面積は1万2,300平米、ヘリ2台分だそうです。それから、尾鷲工業高校のヘリポート2台分は1万2,000平米ですね。それから、海山の道の駅は約6,000平米となっております。

そのことを考えますと、やはりどうしても、私の欲かもしれませんが、尾鷲市はこれ以上のものをつくっていただきたいなど、私の欲のあれかもわかりませんが、そのようにお願いしたい。それで、この石切り場全体の面積というのは、どこまでがどこまでとはわかりませんが、わかるのであれば、総面積、石切り場の。斜面のところも買うてほしいんですけど、本当は。買うてもらうて、確保してほしい。全てを確保してほしいんですけど、その辺はどうでしょう。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 全体面積につきましては、今、資料は持ち合わせておりませんが、もし議会に許していただいて市のほうに要望するということになれば、もちろんどういった防災施設にしていくかということも、議論の中で広さは決定されていくわけでありましてけれども、もしそういった議論になれば、できるだけ広い用地を確保していただくように、強く要望をしていかなければならんのではないかなと思っているところであります。

議長（三鬼孝之議員） 4番、田中勲議員。

4番（田中勲議員） その点をぜひとも、要望をお願いいたします。

それから、次に、市は情報発信だとか休憩所、それから、物販施設、トイレな

どは市で受け持たれるというふうな考えでよろしいと思うんですけど、施設の建設についてはですよ、物販、それから情報発信、それからトイレ、休憩所、この点は市が担当しますよという説明を受けたと思うので、これは間違いないでしょうかね。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 道の駅の整備につきましてはいろいろな手法がありますが、前例で、例えば道の駅海山の前例を参考にさせていただきますと、国がじゃなしに、市町の側で言えば地域振興施設、これについて整備をしている、他の部分については一体型整備の中で国が担っていただいているという先例があります。もちろんこれは個々の、それぞれの道の駅の整備状況によって変わってくると思いますが、そういった身近に前例がありますので、そういった中での協議になるのではないかというふうに思っております。

議長（三鬼孝之議員） 4番、田中勲議員。

4番（田中勲議員） わかりました。

隣に道の駅海山の例があります。その点であればトイレを含め、あそこは情報発信とかというのを国が整備したということですね。それから、物販施設、道の駅については旧海山町がやられたと。そういう前例がありますもので、ぜひともそういうふうに、なるべく交渉の中で有利なようにやっていただきたい。

それから、一つ大きな、道の駅について難問の一つだと私は思うんですけども、トイレ、要するに浄化槽、それをどこへ流すか。海まで市長は持っていきます、そのための費用が莫大であるというふうに思われますが、その点、水道管の敷設にしても大変な事業だというふうに考えます。その点も国交省との一体型の防災施設にさせていただいて、国とそういう交渉の中で、これをぜひとも国でやっていただきたいというふうな交渉をぜひやっていただきたいと。その点、いかがですか。副市長、どうですか。

議長（三鬼孝之議員） 副市長。

副市長（横田浩一君） おっしゃるとおり、国と一体型で整備をといる中の要素の一つでございますので、正式に要望させてもらうという段階になった上は、そういった協議もさせていただくということになります。

議長（三鬼孝之議員） 4番、田中勲議員。

4番（田中勲議員） よろしくお願ひします。

それから、施設について。学校を再利用した、廃校を利用したそれについて、

病院と連携した、廃校になった地域に建ててはどうかと、あるいは耐震化ができれば改築して、やはり今の高齢者介護の方々、一握りの方々を身近に見ておられますと本当に、私らもいずれはこういうことを経験して人生を終わるんですけども、それを見ておられますと、やっぱり何かの支援が必要であるかなど。地域の方が家に閉じこもり、人目もはばかって暮らしていかなければならない現状がどこかにあるんですね。そういうところをやはりみんなが、軽度の、軽いお年寄り、そういう方々を地域でみんなが支え合っていこうと。そういう施設の一つとして、そういう利用の方法もあるんじゃないかと。その点について、ちょっと思いがありましたら、どうでしょう。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 今、高齢化率がどんどん上がってきておりますけども、その中でやはりお年寄りの方が生きがいを持って、元気で暮らしていただきたいというのが我々の思いでありますので、その中でどういう支援ができるのか。みんなが仲よく、集まる場所があつて、そこで楽しく過ごすことができれば一番だと思いますので、その一つの選択肢として、休校、廃校となっております学校、施設等も考えられます。教育委員会とも連携をとりながら、今後の課題とさせていただきますと思っております。

議長（三鬼孝之議員） 4番、田中勲議員。

4番（田中勲議員） ぜひとも、本当にお願いをしておきます。したいと思います。

それから、その思いについて、日ごろからスマートで総合病院に非常に尽力されております事務長の御意見をここでちょっとでも、思いを、少しでもありましたら承りたいと思っておりますが、いかがでございましょう。なかったら、よろしいですけど。諦乗事務長、どうですか。

議長（三鬼孝之議員） 病院事務長。

尾鷲総合病院事務長（諦乗正君） 私もそのように思っております。市長さんも言われていますように、健常な高齢者は確かに、広場でも行って毎日暮らしていただければいいと思うんですけども、今、療養病棟という問題を取り上げていただきましたけれども、介護度が4とか5の人はいいですけども、1とか2の方は、やっぱりどうしても在宅へ帰らなくちゃいけません。その人たちはどういう暮らしをしておられるかといいますと、ひとり暮らしとか2人暮らしがどうしても多うございます。

そこで、日常の生活をどのようにやるかといいますと、ヘルパーさんとかでつ

なぎでやっていくという生活が、今、求められております。そこでは何らかの工夫をしながら、やっぱり地域で暮らしていただくためにも、市長さんが今言っていただきましたように、当然、昔、学校で、学んだところを今度は自分たちの住み家にしながら共同生活する、例えば、昔、今で言うグループホームでございますけども、そのグループホームを開設したりしながら、病院としても市民病院でございますので、そこへリハビリ士なり看護師なりが、専門分野の人間、あと、介護福祉も専門分野でございますけども、そういう人たちが手伝いに行って進めていくというのがよかろうかと考えています。

以上です。

議長（三鬼孝之議員） 4番、田中勲議員。

4番（田中勲議員） ありがとうございます。ぜひともお願いをいたしたいと思いません。

次に、アクアステーションのサツキマスのことについてお伺いします。

古江アクアステーションの深層水取水量は1日2,885トン、年間で約105万トンになりますね。これは、その中から県の栽培センターと尾鷲名水にここから行く水量を差し引くと、1日何トンになるのでしょうか。まず、商工観光課長、どのぐらいになりますか。お聞きします。

議長（三鬼孝之議員） 商工観光推進課長。

商工観光推進課長（川端直之君） 手持ちの資料の中にそこまで詳しくは持ってはいないんですが、今おっしゃるように、年間の取水可能量は約105万トンであります。そのうち供給量の一部として、栽培漁業センターだけではないんですが、栽培漁業に約16万4,700トン、養殖試験等に14万5,000トン、大口分水に1万7,500トン、月約32万7,000トンを供給しております。

議長（三鬼孝之議員） 4番、田中勲議員。

4番（田中勲議員） その残りの量で、サツキマスの養殖をぜひともやっていただきたいんです。これは、やっぱり尾鷲にとって活性化の一つでもあります。今後の深層水事業にとって非常に重大なことであります。それで、要するにそのサツキマスをやられようという事業者を、〇〇〇を引っ張ってでも、ぜひとも呼び寄せていただきたい。

議長（三鬼孝之議員） 田中議員。

今、〇〇〇という発言がございましたけども、不適切な発言で、削除いたしますので御了承ください。

4 番（田中勲議員）　　そうですね、じゃ、訂正いたします。

　　ぜひとも誘致していただきたいと思います。その決意をちょっとお聞かせください。

議長（三鬼孝之議員）　　市長。

市長（岩田昭人君）　　今、恐らく有望なのが、サツキマスとアワビということになると思います。サツキマスについては、恐らく天然物は全国でも1,000本も流通していないんじゃないかというふうに思っておりますので、ぜひここで事業化をしていただいて、尾鷲の一つの食の魅力にさせていただきたいということで、私も事あるたびに事業者を訪れまして、社長にお願いを続けているところであります。引き続きお願いをしていきたいと思っております。

議長（三鬼孝之議員）　　4 番、田中勲議員。

4 番（田中勲議員）　　ぜひともお願いをいたします。

　　それから、最後です。アマチュア無線の試験費用、それから無線機の購入に、割とかなりの費用がかかることも事実です。これは自主防災会に、今、市長も言われましたが、10万円の費用の中から捻出をするようなことができるというふうなことでございましたけど、その自主防災会が1名なりとも、今後、各自治会におけるそういう広がりを持っていったらええなど、こういうふうに思っております。今後ともよろしく、このことについてもご支援を賜りたいと思います。

　　ありがとうございました。これで一般質問を終わります。

議長（三鬼孝之議員）　　答弁、よろしいですか。答弁は。

（「何かございましたら。まあ、よろしいです」と呼ぶ者あり）

議長（三鬼孝之議員）　　よろしい。市長、何か。

　　市長。

市長（岩田昭人君）　　アマチュア無線につきましては、自主防災会、あるいは尾鷲ロールコールクラブと話をさせていただいて、弾力的な対応ができるように考えさせていただきます。

議長（三鬼孝之議員）　　ここで休憩をいたします。再開は午後1時10分からといたします。

〔休憩　午前11時45分〕

〔再開　午後　1時10分〕

議長（三鬼孝之議員）　　休憩前に引き続き一般質問を行います。

　　次に、10番、大川真清議員。

〔10番（大川真清議員）登壇〕

10番（大川真清議員） 啓蟄を迎え、日中は暖かさを感じるようになってきました。ことし6月には議員及び市長選挙を迎えますが、さまざまな世代や立場の人が身近な政治に参加してほしいと思います。

さて、今回の質問では、道の駅設置事業を中心に、今後の市政経営について、若干の提案も交えながら行いたいと思います。

前回の定例会において、持続可能な自治体経営について質問を行いました。その中で、道の駅はどのような位置づけの投資か、将来にツケを回さない覚悟があるかとの質問を行ったところ、熊野尾鷲道路の尾鷲南インター付近が適地で、交通の流れを引きとめ、情報発信をする機能が必要、さらに、道の駅は雇用を生み、情報発信、防災拠点となるとの答弁がありました。

市長は、1月から2月にわたり市内15カ所で、南インター付近での道の駅設置をメインテーマに、市政懇談会を開催してきました。私は、3分の1の会場で傍聴をしましたが、懇談会というより、反対者を説得する会といった雰囲気でした。

もともと参加者には情報が少なく、コンサルタントが描いた設置のメリットを強調するような説明を受けただけでは、賛否の判断はできません。道の駅設置の是非を問うのか、南インター付近に道の駅を設置することを説得するためであったのか、コンサルタントの描いた案に市民のアイデアをつけ加えるためだったのか、趣旨のよくわからない懇談会でした。

後半になると、参加者の情報もふえてきて、賛成、反対それぞれの立場から意見が出るようになったので、討論会にでもすればよかったのではないかと思います。いずれにしても、市長が口にする、市民とともにつくるという理念とはかけ離れた懇談会でした。

一方、今回の市政懇談会に参加のあった人は、人口からすると1.5%程度であり、あとは市長が懇談会の意見を踏まえ、市民感覚として判断するものと考えております。

ただ、私の結論から申しますと、現在の南インター付近での道の駅は白紙撤回にすべきだと思います。今回はこの道の駅を核に、集中的な議論をしたいと思います。

まずは、市政懇談会を終えて、市役所内の議論はどうなっているのか。その上で、道の駅設置の方向性についてどのようにお考えか。また、どの程度の規模で、

どのくらいの維持管理費を考えているのか。国との交渉はどこまで進んでおり、いつ一体型の要望を行うのかなど、改めて市長の考え方をお聞きしたいと思いません。

壇上からの質問は以上といたします。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

〔市長（岩田昭人君）登壇〕

市長（岩田昭人君） 道の駅の御質問に関しまして、答弁いたします。

まず、1月17日から2月22日にかけて、15会場で開催した市政懇談会には、延べ310名の市民の皆様にご参加をいただき、道の駅だけでなく、資源ごみや防災、また、市政全般について御意見を頂戴することができました。2時間の懇談を予定時間としておりましたが、ほとんどの会場で予定時間を超えるほど、市政に対しての提案や未来の尾鷲に対しての思いをいただきました。

庁内での議論につきましては、一昨年策定しました尾鷲市道の駅設置検討計画では、議会議員、関係団体代表者、商工会議所、関係課長から成る尾鷲市道の駅設置検討会議を設置するとともに、庁内では、副市長初め市長公室などの関係5課長から成る庁内検討会議を設置し、議論を重ねるとともに、尾鷲市道の駅基本計画の策定に関しましても、随時、関係各課と調整を図っております。

また、尾鷲商工会議所とも、基本計画の策定では、打ち合わせ会議への出席はもちろんのこと、先進地視察なども同行していただき、施設設置はもとより、運営に関しても御意見をいただくとともに、現在道の駅を核とした市内の周遊プランを策定していただくなど、道の駅の設置に向けて深くかかわっていただいております。

設置の方向性につきましては、これまでの経過や皆さんの御意見、高速道路の延伸などの社会的潮流や時代の環境変化などを総合的に判断し、道の駅の方向性を考えたときに、昨年11月に策定いたしました尾鷲市道の駅基本計画でお示しいたしましたとおり、さまざまな地域課題に対応していくためにも、道の駅の設置は本地域において有益であると考えております。高速道路の延伸によって、尾鷲市を通過点にしないため、また、大規模地震による津波災害からの復旧の拠点としてなど、5年後、10年後を見据えるときに、まさに今、考え、行動し、尾鷲市が一丸となって汗を流し、未来につなぐ必要があります。

道の駅の設置は、利用者の利便性や発災時の災害復旧拠点などを考えた場合、尾鷲市単独での整備では解決が困難であると考えられる、多様化するドライバー

ニーズや、ストロー現象への対応を行うためにも、国との一体型による整備を要望してまいりたいと考えております。

一体型での整備は、国土交通省と尾鷲市がそれぞれの役割を明確にし、施設の規模、機能を協議、調整を図ります。維持管理費に関しても、確定するのはこれら協議が行われた後となります。

国土交通省への正式な要望に関しましては、既に平成24年度に熊野尾鷲道路Ⅱ期事業が着手されたことから、できるだけ早い段階で国土交通省など関係機関に行わなくては、より利便性の高い施設整備が難しくなると考えております。

議長（三鬼孝之議員） 10番、大川真清議員。

10番（大川真清議員） そうしましたら、まず、維持管理費とか規模に関しては、国との協議の後でないとは明確なものが出てこないというのはわかりました。

あと、国との交渉、一体型の要望。これはいつ行うかという、そういうタイミングについては、どのようにお考えですか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 先ほども申し上げさせていただいたとおり、現在、市政懇談会での賛否両論の御意見を整理しているところでありますので、この後、議会の皆様にもお示しして、その後の判断になるかと思っております。

議長（三鬼孝之議員） 10番、大川真清議員。

10番（大川真清議員） その要望のタイミング、時期なんですけども、こうやって市政懇談会を15カ所開催されて、今言われたように賛否両論の意見があったと。そして、その後、議会にも一応その取りまとめた意見等を提示して、それから、また議員の意見を聞いてから判断されるんだと思うんですけども、ここまで市民を巻き込んでの議論をしてきたということもありますので、判断というのは市長選挙の後にぜひしていただきたいと思っておりますけども、そのあたりはどうでしょうか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 先ほども冒頭に述べさせていただいたように、もうⅡ期工事の着手に入っておりますので、その辺の判断は、やっぱりタイミングを逃せば大変なことになると思っておりますので、そのタイミングを勘案して見きわめたいと思っております。

議長（三鬼孝之議員） 10番、大川真清議員。

10番（大川真清議員） そうしましたら、はっきり選挙の後かどうかというのはわ

からないということですね。

いろいろ道の駅のメリットを、私も懇談会、もちろん議会での説明を聞いてきて、何度も聞いているんですけど、機能というのは非常に理解はもちろんできるんですね。もちろん防災の拠点、復旧の拠点になるとか、そういうことは、それぞれの機能はわかるんですけど、もうちょっと大きな意味での、ターゲットをどこに絞ってというか、誰のためというのか、それと何のためか、その辺がちょっとわからない、まだまだ何か玉虫色的なものにどうしても感じてしまうところがあるんですね。

私は、道の駅というのは当然、外から来るドライバー、来訪者のため、一義的にはそうかもしれませんが、やっぱり今日の道の駅というのは、市民が利用できる、市民第一というふうに考えるべきだというふうに思うんですね。そうすると、南インター付近での設置というのはやっぱりふさわしくないと思うんですけれども、そのあたりのお考えはどうでしょうか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 道の駅にはさまざまな機能があります。そういった中で、まず高速道路を通過して来ていただいた尾鷲への来訪者に対して、最初の尾鷲のもてなしのときでありますので、地域の皆さんによってもてなし、お迎えをしていただくということが大事なことであります。議員がおっしゃられるように、当然地域の皆様にも御利用願わなければなりません。

そういったいろんな要素がありますけれども、何も南インターであったら、地域の皆様、確かに距離的には遠いかもわかりません。しかし、大川議員が言われるのは、市外からの、要するにいわゆる旧町内ですか、そこからのことだけを考慮に入れているのではないかなと思いますけれども、尾鷲は南北に長い地域でありますので、梶賀もあり賀田もあり曾根もあるということを考えれば、今、大きな動きとして地域が元気になりつつあります。そういった動きも道の駅に取り入れるということを考えれば、南インターがふさわしいと私は思っておりますし、単純に機能を、物を買う、あるいは物を売ると、あるいは、食堂、物を食べるという部分だけに限定すれば、確かに地域の人は行きにくいかも知れませんが、総合的に機能を判断すべきであるというふうに思っておりますので、物販機能だけじゃなしに、災害拠点としての機能、あるいは情報発信としての機能、そういったことを考えれば、やはり高速道路と国道42号の結節点である南インター付近が適地ではないかなと私は思っております。

議長（三鬼孝之議員） 10番、大川真清議員。

10番（大川真清議員） 今、市長は、私は旧町内からのアクセスのことだけを考えているのではないかと、いや、私はそうではなくて、僕自身が周辺地域と言われているところの出身ですので、実際、高速道路がつながって、三木里インターができ、賀田インターができ、そして、九鬼にはもう既に便利なトンネルがあるということも考えたら、その距離から、周辺部から来るとなったら、やっぱり旧市街地なんですね。もう10分、15分ですから。だから、中途半端な位置になってくるんですね、南インターというのは。そういったことを考えても、周辺地域からのメリットというのは、私は余りないというふうに思っていますね。

それとあと、最初のもてなしの場所にするんだということなんですけども、もてなしの場所であるとか、あと、情報発信、これはあえて尾鷲の旧市街地の外れのほうの道の駅ではなくて、この旧市街地の中の国道沿いであるとか町なか、そういうところが担えば、十分そういった機能は果たせるんじゃないかと私は思いますね。

それで、それと関連して次の質問に行きたいんですけども、特に道の駅の大事な機能の中で、町なかの誘客ということをよくおっしゃっておりますけども、その町なかというのは、市長にとってはどこを指して、そしてどこを誘客するか。これは以前の議員の方の質問にもあったかと思うんですが、なかなか具体的な答弁がなかったので、もうちょっとそこをお聞きしたいと思います。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 尾鷲市のまちづくりにつきましては、熊野古道の世界遺産や海洋深層水事業によるアクアステーションとか、夢古道おわせ、熊野古道センターといった集客交流施設の完成などの大きな転換期を経まして、高速道路の開通、あるいは伊勢神宮の式年遷宮、熊野古道の世界遺産登録10周年など、一つの節目を今迎えているのではないかと考えております。

きょうのほかの議員の御質問に答えさせていただきましたように、これまでの我々の取り組みは、第5次尾鷲市総合計画後期基本計画の中で、丸ごと尾鷲を売り出そうというプロジェクト、観光と物産、地域を一体して売り出していく事業を展開してきました。

海業、山業といったような展開をしているところでありますけども、これらの中には、海洋深層水事業における企業誘致、商品開発、産業利用、雇用創造、地域おこしなどの促進をやってきております。食による魅力づくりや魅力ある魚の

まちづくり事業での夢古道おわせのランチバイキングによる旬の食の提供、尾鷲よいところ定食、地域ごとの食文化が残っているサンマやアジなどの尾鷲さかな寿司、マダイやマハタ、マグロ、アオリイカなどのブランド化の推進、グリーンツーリズム推進事業における三木里地区でのコンニャクづくりや古江地区での深層水を使った料理体験などの体験事業の商品化、あるいは梶賀地区のあぶりや三木浦地区でのツバキ油などの商品化が進んでいるおわせ輪内地区まると振興協議会における輪内地区を中心とした各地区での魅力づくり、にほんの里100選に選ばれた須賀利地区の日本の原風景が残る景観、熊野古道の運動と尾鷲の食による栄養、夢古道の湯での休養を組み合わせ商品化した尾鷲市健康増進プログラムによる健康増進ツアー、これに伴い養成したガイドインストラクターとしての尾鷲セラピスト、魅力ある木のまちづくりとしての尾鷲ヒノキを活用した商品づくりやマイ箸などの啓蒙運動などがあります。

地域資源を活用した尾鷲ならではの旬の特産品を、尾鷲の風土や季節が感じられるオリジナルの箱に詰め合わせて、地域の魅力とともに年4回の頒布会方式によるカタログ通信販売を行う尾鷲まるとヤーヤ便、毎月第1土曜に開催している尾鷲イタダキ市、特産品開発や販路開拓を専門家の視点で磨き上げる尾鷲ものづくり塾など、この数年間でさまざまな魅力づくりに取り組んでまいりました。

さらに、これらの取り組みには、全て主体となる人や組織が存在しており、これら人による魅力は尾鷲オンリーワンのもので、これはどこにも負けるものではないと思っているところでもあります。

また、こうした魅力を地域での滞在時間の延長につなげ、地域の消費を拡大していくための仕組みとして、尾鷲観光物産協会が法人化され、着地型旅行の企画実施ができる第3種旅行業を取得し、市内の人や物、地域の魅力をパッケージ化して売り出すことで、本市に誘客し、魅力を発信することができる体制が整いました。

道の駅の説明で位置づけました町なかとは、こうした全ての魅力を総称したもので、情報発信をしたり誘客したりすることで、一層の効果を創出してまいります。大きな節目を迎えようとしている今、次のステップはこれまでの取り組みを総括した上で連動させ、さらに進展させることが課題であります。そのための手法は、高速道路が開通した後のまち部ともかかわることであり、連動させる分野ごとに人の魅力を掛け合わせ、人づくり、外に広く出していくための情報力、そして、それを効果的に、また、効率的に発信するための仕組みづくりを共通した

考えとして取り組んでいくことが不可欠じゃないのかと今思っているところであり
ます。

議長（三鬼孝之議員） 10番、大川真清議員。

10番（大川真清議員） ずっと説明を聞いていて、どこが町なかかなというふう
に思った……。最後に、いろいろアイテムはよくわかります、魅力づくりをいろい
ろ、前市長、前々市長のころからですか、やっていたのもよくわかっておるん
ですけども、しかも全てソフト的な事業だと思えるんですけども、僕は以前、平成2
2年度でしたか、まちなかにぎわいづくりプランというプランをつくったことも
ありましたので、あのときに町なかの再生というようなことがたしか出てきてい
たと思いますので、私としては、町なかとしては旧町内の港から駅前、そして国
道沿いも含めて、このあたりが一つの町なかとして、そして、旧市街地を再デザ
イン、どのように活用していくかというのを考えて、それで道の駅のような機能
をどうするかというのがもともとの議論、道の駅の議論だと私は思っているん
です。

できたら、本来そういった町なか再生の計画を10年単位の単位でつくって、
その中にやはり投資額も含めて、どういったところに大体どれぐらい投資してい
くかという、そういう計画性のある投資をしないと、なかなか、投資してそれ
に対する効果というのが見えにくいですよね。そのストーリーが見えにくい。今
言われた各アイテムはそれぞれよくわかりますけれども、そのあたり、今度連動
させるというふうなお話もありましたけども、じゃ、結局はどういうストーリー
を描いているのというとなかなかわかりにくいんですね。もうちょっとそのあたり
をシンプルにお答えいただきたいんですけども。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 三鬼議員の質問に対して回答させていただいたとおりです
けども、極論をすれば、食の魅力や人と情報力によって町なかのにぎわいをつ
くっていくと。そういった中で、地域の元気、それから活動力を養っていくとい
うことでありまして、何も我々が意識していない部分で、都会の人が興味を示
す、あるいはおもしろいと思ったり、いろんな問い合わせがあったりするとい
うようなことがありますので、町なかを、大川議員が言われたように、リデザ
インするという部分は確かに必要でありますけども、はなから町なかとはどこ
なのかとか、そういった部分じゃなしに、町なかは全てを対象にするのだと、
そういった中で町なかのいろんな資源を大事にしながら情報発信をしていく、
その中心が食であ

るということでもあります。

確かに、町なかのお店とか、町なかの魅力をリデザインするということは大事なことでありますので、その辺は今後の町なかづくりにつなげていきたいと思っております。

議長（三鬼孝之議員） 10番、大川真清議員。

10番（大川真清議員） 全て尾鷲市全体を町なかと、これはちょっと、私は余りいい考えじゃないと思いますね。求心力のある部分と、そしてまた独特の魅力のある周辺部というのは、連動させるというのはもちろん当たり前ですけれども、やはりどこにまず一つの集客のポイントを持ってくるかという、ある程度の範囲というんですか、そういったものを設定して事業をやっていくほうが、私は効果が出るのではないかなというふうにちょっと思っています。一旦その町なかの話、これはそれぞれ考え方が若干違うなとわかりましたので、次の話に行きたいと思えます。

道の駅の事業で一つ大事なポイントは、雇用を生むということだというふうに何度か説明を聞いておるんですけども、今、施設規模も決まっていない段階で何人ぐらい雇用するかというと、非常に難しい、想定はできないかもしれないですけども、その雇用に対する道の駅の考え方、そういったことをまず、次にお聞きしたいと思います。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 御存じのようにまだ具体的な計画ではありませんけども、この基本計画の中では、標準的なというような書き方で、大体平均的な道の駅としての、例えば設備投資であったり雇用であったりということを試算しておりますが、その中で言えば、レストランで6名、物産関係で7名、総務として駅長を含めて3名ということで、合計で16名ぐらいの試算となって……。これはあくまで試算であります。

ただ、今言わせていただいたように、食を中心としていろんな町なかのにぎわいをつくっていく、あるいは今現在進めておりますものづくり塾等と連携しながら道の駅への対応を考えていくということとなれば、標準的な雇用もあるでしょうし、それ以外の波及効果も若干出てくるのではないかなというふうには思っております。

議長（三鬼孝之議員） 10番、大川真清議員。

10番（大川真清議員） 標準的なモデルで16人前後と。私は標準的な規模だと5

人程度じゃないかと思っていたんですけども、十何人雇用しようと思うと、当然売り上げにすると億単位の売り上げが必要になってくるかなと思うと、そうすると、おのずから物販なりレストランの規模というのはそれなりの規模が必要になってくるのではないかというふうに私は思います。

ただ、あと、標準的で16人程度だとしても、その中で、じゃ、例えば正規職員、そういったものは何名ぐらい置けるというふうに考えていますか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 今現在、どのような形で管理運営をしていくのか、あるいはしてもらうのかという議論も進めておりますが、指定管理が一応有力な候補でありますけれども、それは、正職員は何名かという話は、例えばその指定管理の中の、どのような対応をするかによって変わってくるわけですが、少なくとも駅長は正職員で常駐するというようなことしか、現在の段階では言えないんじゃないかと思います。

議長（三鬼孝之議員） 10番、大川真清議員。

10番（大川真清議員） 今、雇用の問題で、特に経済対策でずっと緊急雇用の制度が始まって、一つ問題というのは、臨時的雇用が多くて正規職員になる人が非常に少ない。端的に言うと、私は今30代中盤から後半になりかけていますけども、昔だったら、企業に入って働けば四、五百万円ぐらいの給料があっただろうというふうなのが、そういう年収モデルとか、生涯所得、大体2億円から3億円と言われていたのが、こういうものがもうほとんど崩壊しているんですね。それで、経済対策で、とりあえずの雇用を生むというので臨時的雇用をふやした、それはつなぎだったわけですね。そういうふうな、まだいまだにつなぎのような事業をやっ払いこうとすると、また今後も臨時的雇用ばかりがふえてきて、果たしてそういう人たちがそこで働き続けて幸せなのかという、そういうところが、私は非常に疑問に思うんですね。言ってみると、例えば今の道の駅の構想の中で、市長はそこで働きたいと、例えば私ぐらいの30代ぐらいの年齢だったとして、働きたいと思うような道の駅を考えていますかね。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 過去に、緊急雇用とかいろんな雇用に対しての対策がなされました。これは、この対策につきましては、私は臨時雇用をするとともに、地域の課題を克服するような対策を行うという狙いがあったんだと思います。要するに、ただ単に臨時雇用をするだけじゃなしに、その臨時雇用を行うことによって、地

域のいろんな、さまざまな課題を克服していくと。平成25年度でつけさせていただいておる、そういったものについても、同じ狙いであります。

確かに現在は、尾鷲の雇用は臨時的雇用が多いということは大きな問題ではありますが、この道の駅をつくることによって、正規の職員としての勤務を当然ふやしていきたいというふうに思っておりますし、そのような魅力のある道の駅をつくっていきたいというふうに、あわせて思っているところであります。

議長（三鬼孝之議員） 10番、大川真清議員。

10番（大川真清議員） 問題点は理解していただいているかなというふうに思うんですけども、継続的な雇用を生んでいくには、単発の事業じゃなくて、やっぱり産業にしていけないといけないというふうに私は思いますね。何かをつくって、そこで商売をして、雇用もそれは生まれますけども、それが一つの、それだけでは産業になりませんから、単なる商売じゃなくて、新しい産業としてどうつくっていくかというふうな、そういった視点にならないと、なかなか持続的な雇用とか、次から次へとある程度売り上げが大きくなっていくという、そういうふうな事業にはなっていないというふうに私は思っています。

尾鷲はもともと、海があって、山があって、そして昭和30年代からエネルギーという、この三つ、よい産業のベースをもう持っているんですね。当然、時代によって衰退している部分はありますけれども、そこに新しい風を吹き込むような企業支援ですとか産業の支援をするほうが、中途半端な観光の投資よりは、尾鷲が生き残っていくには有効な投資だと私は思っているんですね。そのあたり、産業の視点といいますか、そのあたりはどういうふうにお考えですか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 繰り返しますが、道の駅を設置する、あわせて町なかのにぎわいを取り戻す、その基本的な視点は食であるという中で、ぜひ今まで培ってきた尾鷲の海、山、そういった中から、その海、山の中から、あるいは海、山の地域資源を利用した、新しい、認められるような商品が、道の駅を設置することによって生まれていただきたい。そのためには、我々も待つだけではなしに、ものづくり塾とか、いろんな企業についても支援をしていく、あるいは企業立地も可能であれば、要するに尾鷲にふさわしいような企業、海、山を利用したような企業の誘致に努めるというようなことで、それはやはり尾鷲の課題を克服する、あるいは新しい雇用を生む、あるいは正規職員としての雇用を生むという部分にも当然つながっていくのではないかというふうには思っております。

議長（三鬼孝之議員） 10番、大川真清議員。

10番（大川真清議員） その食の魅力を中心に据える、先ほどの議員の質問でもありましたけども、でしたら、その食の新しい産業をつくっていくという、そういうふうな方向性を打ち出して、その商品開発を、商品を生むんだじゃなくて、商品が生まれるような支援ですよ、今、ものづくり塾をやっていますけども、できたら、直接ものづくり塾なんかを市がやるんじゃないかって、自発的に企業さんなりが、商店さんなりが物づくりができるような環境づくりをやっぱり私はしていないといけないというふうに、私なりのそれは産業支援の視点ですね。

話を一旦、雇用の部分、大体その辺の違いがわかりましたので、次、財政の視点、これで道の駅の事業のことを話を進めていきたいと思います。

今現在、市長は御存じだと思うんですけども、尾鷲市の市債残高、どのようになってきているのかというのは御存じですかね。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 105億円ぐらいですね。ただ、これにつきましては、今後さまざまな事業計画が軒並みに待っております。宮之上小学校の耐震、それから、コミュニティーセンター、中央公民館も耐震をしなければならぬでしょうし、保育園の増強もせんなん、エリアワンセグもやらんなん。それから、消防無線のデジタルの活動波の部分も残っております。それから、斎場ももう考えんなんでしょうし、今やっていますストックマネジメント、こういったものもどう対応していくのかということを見ると、恐らく市債残高は、27年から過疎の返還も始まりますので、110億前後で推移するのではないかとこのように思っております。

議長（三鬼孝之議員） 10番、大川真清議員。

10番（大川真清議員） そうですね、今、市長が言われたように、学校耐震も全部終わっているわけじゃありませんし、保育園とかコミュニティーセンター、市長がもう確約しているものもありますね。それで、あと、一番大きな市民生活に直結するものはごみ処理場とか、こちらの市役所の庁舎、そして体育館の建てかえ、こういったもの。あと、新規で建てるもの以外にも、20年経過してきている箱物もふえていて。今回建てたばかりの小学校の若干修繕も必要になってきているということもありますけれども。

もともと市債の一応目標というのは、100億円以下にするというふうな目標を行革の中で掲げています。実際、税収が20億円ちょっとしかないですね。こ

これは、すぐ上げようと思っても、地方自治体はどこでも一緒ですけれども、簡単に上がるものではない。その中で、本当に返していけるのかなということに対して疑問があります。

ですので、一番、今、財政危機、平成13年度だったかに財政危機宣言を出されていたと思うんですけども、実際に今がまさに財政危機を迎えているんじゃないかと思いますね。ですので、道の駅事業、これは私は実は最優先ではないというふうに思っているんですけども、本当に将来にツケを回さないという視点を考えて、道の駅の事業というのをお考えですかね。その財政危機に関する考えと将来に対するツケを回さないという視点、そのあたりをちょっとお答えください。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） やること、やらなければならないことと、その辺を考えれば、確かに財政は厳しい状況であります。しかし、じゃ、何もしないでいいのかという話にはなりませんので、尾鷲の元気を取り戻す、尾鷲の活性化を目指す、そういった中でどう判断していくのか、何をやっていくのか、やはりそういう取捨選択をしていかなければならないと思っております。耐震は本当にゼロから始めた話でありますし、いろんな課題もたくさんありますけども、しかし将来のことを考えて、5年先、10年先のことを考えて、じゃ、今何をすべきなのかということを考えて、いろんな政策をやっていかなければならない。

道の駅で言えば、だからこそ国との一体型の整備をこれから要望させていただきたいということでもありますし、単独型ではとてもこれはできるような事業ではあり得ないというふうに思っております。何とか国の力をかりながら、尾鷲の元気を取り戻すような施策をやればいいなというふうに思っております。

もちろん道の駅をつくることだけが、課題克服の話ではありません。先ほど大川議員も言われたような、いろんな施策を総合的にやることによって、尾鷲を元気にしていく、尾鷲の新しい形の産業が生まれていく、そういった中で、尾鷲は元気になっているなというような状態に私は導けたらいいなというふうに思っております。財調を含め、課題は確かに厳しいですけども、しかしやらなければならないものもあるというふうに思っております。

議長（三鬼孝之議員） 10番、大川真清議員。

10番（大川真清議員） やらなければならないものがあるからこそ、本当にその優先順位をつけないといけなくなっていると思いますね。今言われた、ふだん使いの普通預金のような財政調整基金も、今、7億円弱ですかね、今回の新年度

当初で。もう本当に、今、じゃ、ここで何か大きな例えば災害なんかが起こったら、本当に尾鷲市はどうなるのか、そういう状態だと思いますね。だから本当に、今、財政危機を迎えていると私は思っています。

それで、投資の順番が違うというのは、やはり一番、市民サービスの優先順位は医療体制だと私は思いますね。これは単なる尾鷲だけじゃなくて、紀北地域全体を含めて、命を守っているということ、そして、雇用が200人から300人ぐらいですか、かなりの雇用があるということですね。今回の高速道路の開通で、医療圏は広がると思います。

そういう意味で、魅力ある病院づくりをしておけば、何とか経営が保てるというような半面、この地域の人口減少と超高齢化で、対象患者さんの人口ってやっぱり減ってくる可能性がありますね。一般会計にこの数年繰り出しているお金が3億5,000万円、繰り出して何とか経営をやっていますけども、財務諸表を見ると、実はもうちょっと繰り出さないといけないというふうに私は感じています。この病院経営のリスクって、尾鷲市の経営、市の運営では一番大きいと思いますね。これが私は最優先だと思います。

市長はどうお考えですか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） おっしゃるように、尾鷲総合病院は大切な尾鷲の基幹でありまして、市民の安全安心を守るということ、市民の安心を生むということ、そういった中でどういうふうに尾鷲総合病院に頑張っていただくかということで、私も日夜頭を悩ましておりますし、三重大学、伊勢日赤、何回か訪問させていただいて、いろいろなお願いもさせていただいておるところであります。現在のスタッフの頑張りによって、そんなに急激には回復はしませんが、だんだんと評判もよくなってきて、経営も少しは、頑張っているところでもありますけれども。

しかし、さらなる、高速道路によって、これはどうなるのかというのはよくわかりませんが、高速道路によって医療圏が広がるという考え方もできますし、あるいは逆に松阪とか津とか、そういったほうに患者が行ってしまうというおそれもあります。しかし、我々はできるだけ努力をして、この病院を守っていかなければならないということでもありますので、それは、引き続き頑張っていくには間違いありません。

しかし、繰り出しにつきましては、今のところ3億5,000万円、これにつきましても、私が市長になってから、最初7,000万をふやし、昨年から1億

ふやして3億5,000万円にしたところでありますので、その辺は十分理解をしていただきたいというふうに思っております。

新しい動きとして、三重大学の医学部長の登部長がいつも言われますけども、尾鷲スタディーを確立してはどうかというような助言もあります。特区での扱い等も含めて、これからそういったことも含めて、取り組んでいかなければならないというふうに思っているところであります。この病院に対する思いについては、大川議員も私も同じ思いであるということをお理解願いたいと思います。

議長（三鬼孝之議員） 10番、大川真清議員。

10番（大川真清議員） でも、財政状況が厳しいというのは市長は理解していただいていたし、その中で箱物事業をまたしようかというのは、やはり市民本位だとは私は思いません。それだと、今からやっていかないといけない公共投資、こういったものをきっちり計画をつくって、市民の前に提示して、それをもとに懇談会なんかのときに、このタイミングで、だからこういうものが要るとか、もちろん突発的なことも含めてですけれども、一応基本的にはこういうふうなものを今後お金を使っていかないといけないというのを、やっぱり市民に提示する必要があると思いますね。私ならぜひそうしますね。

それと、道の駅事業を今いろいろ話をしてきました中で、僕は今すぐ進めるべきでない理由というのは、一つはその財政的な問題、そしてやっぱり計画性がちょっと不透明である、まちづくりのストーリーがあるようでなかなかないということ、そして、ちょっと今言いましたけども、これ以上、今すぐに箱物をふやせば、必ず箱物行政のツケというのは後世に残りますから、私の世代に必ずかかってきますから、それは。

だから、今やるんだったら、何か潰して何かを建てるというふうにスクラップ・アンド・ビルド、これがやっぱり原則になってくると思います。時の市長として何かやりたいというのはわかりますけども、そういった欲望だけでやるべきではない、むしろ自重することが次の世代につなげていくことだと私は思っております。

ただ、何もかも、市長も言われましたけども、じゃ、何もしないでいいのかというわけではありません。もちろんベースになる財政事情で、財調が、今の倍ぐらいに何とかふやしたとか、病院経営が黒字化が常態化してきたとか、そういった台所事情がよくなってくれば、よし、じゃ、箱物にちょっと投資しよう。もしくは、市役所の業務を見直して、人員削減をして、小さな市役所を目指して、

総人件費を今よりももっと下げる。ただ、基礎自治体の市民サービスが今ふえていきますから、これ、非常に難しい問題ですね。

しかし、新年度の予算を見てみると、新たに投資するお金というのはもうほとんど捻出できないんじゃないかなというふうに私は思っています。だから財政構造自体を変えていく必要があると思います。今言ったように、市役所もぎゅっと小さい役所にしていく、そういったことを腹をくくってやっていくかどうかですね、市長が。そのあたりどうでしょうか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 道の駅に限定すれば、この北、南が事業化されてつなげるというタイミング、これをやっぱり重視しなければならないというふうに思っております。

それから先ほど言われた市民サービスと市役所の事務、そういったもののことに関しましては、私としても何とか、例えばの話ですけれども、再任用が頓挫したこともありますので、例えばノウハウを持った市役所OBの方なんかには、新しい形で要望を担っていただくようなことができないものかという、今、模索を自分の中では始めているところでありまして、そういった新しい形でなければ、合理化の話で定員につきましてはもう随分削減しておりますので、なかなか難しいことでもありますけれども、新しい形での業務委託、あるいは仕事のお願いをしていかなければ、もうなかなか難しいんじゃないかなということでもありますので、市役所運営そのものをもう少し見直してみたいなというふうには思って、今いろいろと頭を悩ませているところでもあります。

議長（三鬼孝之議員） 10番、大川真清議員。

10番（大川真清議員） 新しい市役所運営をやっていかないといけないと言いながら、市長は担当課を三つふやしたり、公民館をコミュニティーセンター化して、職員が足りないのは明らかになっていますね。そういう意味でも矛盾した経営を続けているような気がしますね。何か財政再建というよりは、財政破綻というふうなほうにちょっとずつ振り子が振れているような気がします。

ですので、事業をやるときには、もうちょっと、そういう経営的な根拠とか財政的な根拠、この道の駅に関してですけれども、こういったものも含めて、やっぱり市民にしっかり説明する必要があると思います。

道の駅のような単体の事業ではなかなか、先ほど言ったように、持続的な雇用というのに私は結びつかないと思っておりますので、何とか産業につながる雇用、

産業につながるような投資で持続的な雇用を生むというふうな、独自の進化をしていかないと、このまちというものの存在価値がなくなってくるかと思います。その中で、二つのキーワード、私は思うのは、一つは古きよきものをさらに付加価値をつけるというリノベーションということと、そして、今のような閉塞感のある中で、新しい方策を生み出していく、新しいことを生み出していくというようなイノベーション、この両輪が、このまちにはこれから必要になってくると思います。

それはつまり、どこかに頼る、今回の道の駅は国との一体型、一体型と言いますけども、そういうふうに国にお願いばかりはしてはいけない時代だと思います。もちろん共同のパートナーとしてはやっていかないとはいけないと思います。

実際に、財政で言ったら臨時財政対策債、本来来るべきお金を一旦借金として市が負担しておく、これは10年間で36億にふえていますよね。実際、市債の3分の1ぐらい。これが戻って来る前に、また新たな借り入れをしている。つまり交付税が今までみたいに来ていないということが、現実、わかっていますよね。ですので、やっぱり自立をしていく方法はどうしたらいいかというのをきっちり考えていかないと、このまちというのは変わっていかないとというふうに私は思っております。

ですので、道の駅に関してなんかは、市長が固執するところが、市民本位からちょっとずれているというふうに私は思っております。ですので、次の選挙ではそのあたりも踏まえて、誰が市の経営者としてふさわしいかを市民に選んでいただきたいというふうに思います。私は、道の駅は白紙撤回、財政再建、これをしっかり柱にして臨みたいというふうに思っております。

さて、私ごとですが、この3月議会を終え、3月末をもって議員を辞職したいというふうに思っております。残りの報酬等につきましては、有効に御利用していただきたいというふうに思います。4年足らずの間ですが、御支援をしていただきました市民の皆様、同僚議員の皆様、職員の皆さんに感謝の意を表したいと思います。

これで今回の質問を終わります。ありがとうございました。

議長（三鬼孝之議員） 答弁はよろしいですか。

10番（大川真清議員） はい。結構です。

議長（三鬼孝之議員） ここで10分間休憩をいたします。

[休憩 午後 2時05分]

[再開 午後 2時14分]

議長（三鬼孝之議員） 休憩前に引き続き一般質問を行います。

次に、7番、南靖久議員。

[7番（南靖久議員）登壇]

7番（南靖久議員） 皆さん、大変お疲れのこととは思いますが、議会の最終バッターということでございますので、終始和やかな雰囲気の中に質問を終えたいと思いますので、執行部におかれましては、どうか歯切れのよい、手短な答弁をお願いいたします。

先ほど大川市議さんが、3月をもって市長選の準備のために、財政問題と道の駅をテーマに選挙戦を戦うと明確に述べられました。これまでの努力に心から感謝申し上げます。頑張ってください。

それでは、一般質問へ入らせていただきます。

「峠道 越えれば尾鷲 冬の海」。市長もよく御存じの俳句だと思います。この句は、平成12年4月18日に開幕した東紀州体験フェスタの一環で、同年秋に当時の北川知事と俳人の黛まどかさん、それに多くの市民が参加して馬越峠を歩きながら俳句を詠んだ「俳句でハイク」のイベントで最優秀賞に輝いた地元中学生が詠んだ俳句で、「峠道 越えれば尾鷲 冬の海」。まさに、現在の当市の市政にかなった俳句だと考えております。当時、紀北県民局に勤務する岩田さん、現市長とともに同じく汗をかいて一緒に歩いた馬越峠が、なぜか今、懐かしく思い浮かびます。

東紀州路に春の訪れを告げるヤーヤ祭りも終了し、季節は冬から、桜の花咲く春に移り変わる時期に入りました。市民生活におきましても、少子高齢化が一段と進む厳しい社会情勢の中、第6次尾鷲市総合計画の策定に当たり、現在の不安や将来に向けて期待を調査するための市民アンケートが実施されました。

その調査結果は、全体的には、老後や火災、そして自然災害に対する不安が多く、60歳代以下の市民は、子供の進学、就職、そして経済的な不安等が示されておりました。また、尾鷲市の将来に希望するものはとの問いには、全体的には、保健、医療、福祉が充実し、安心して暮らせるまち、60歳以上では、自然災害への不安がなく、健全な財政運営を行うまち、60歳以下では働きがいのある職場が多く、活気ある自然が多く残るまち等に期待する市民アンケートの調査結果が出ております。

市民福祉の向上を常に目指す市政は、市民意識に沿った運営を行うことを、最も多くの市民が望んでいる、本来の市政執行の姿だと私は考えております。しかし、尾鷲小学校の耐震整備問題、新規採石事業問題等に対する市長の曖昧と思われる姿勢、そして、現在進行形の尾鷲道の駅等々について、議会や市民から賛否両論の声が出される中で、私の聞く市民の声のほとんどが、否定を示す意見でした。

市長は約1カ月の間、市内15カ所で道の駅、ごみの分別、防災等についての市民懇談会を開き、延べ310人の市民の方が参加いただき、市民の皆様の意見を聞く場を設けました。市長みずからが率先して市民の前に出て、市民の声を聞く姿勢は、市政執行を行う市長としては当然のことであり、もっと早い時期の市政懇談会を望んでいた1人でした。

市政懇談会をやっとの思いで終えても、直面する現実には冷たい真冬の海が見えるだけで、やはり尾鷲市の行政課題に対する市民の意見は依然として厳しく、岩田市政がますます厳冬の世界に入り込んでいく様子が伺えます。

市政運営は市長1人の責任ではなく、互いに市民から選ばれた一方の二元代表制の議決権を持つ議会も、市政執行に当たっては一定の責任を持つべきであります。また、議決した重要案件等についても、議会として市民に対して説明責任を果たすべきだとも考えます。予算編成権を持つ市長と議決権を持つ議会がお互いに切磋琢磨して、市民から信頼、支持される政治を行うことが、我々に課せられた共通の使命だと考えています。毎回毎回、一般質問で、壇上から市長に対して批判的な意見を述べている私も、たびたび市民の皆様からは非常に厳しい意見やお叱りを受けているのが現実で、自身、日々、反省する日が続いております。

それでは、質問通告書に従いまして、所信表明と新年度予算編成の中から、主に道の駅や地場産業の振興等について、市長の考え方をお聞きいたしたいと思っております。また、最後の質問者ということで、重複する質問も多々あるかと思っておりますが、答弁のほどよろしくお願いいたします。

最初に、新年度予算編成についてお尋ねします。

岩田市長が奥田前市長から引き継いだ平成21年度一般会計当初予算は78億6,000万円、当時語呂合わせで、悩む予算だと言われてきました。そして、市長が平成22年度に初めて編成した当初予算が82億8,700万円、平成23年度が87億9,400万、平成24年度が96億9,200万、そして、今回、平成25年度、任期最後の当初予算が98億6,300万円と、岩田市長就任以

来最高額の新年度予算、一般会計予算編成となりました。

新年度予算の歳入では、自主財源の市税収入が22億円を下回り、一方の財政調整基金からの繰入金が7億2,476万円となり、平成24年度と比較しても財調からの繰入金が2億3,100万円増加しております。また、市債として12億120万円の借り入れを行い、残りは地方交付税、国庫支出金、県支出金等の依存財源を主に、歳入予算全体を賄っております。

市長は所信表明で、第6次尾鷲市総合計画の取り組みを確実なものとする重要な年度で、その将来都市像の実現に向けた取り組みを推進していく必要がある、市長の改選期であることから骨格予算とした、骨格予算とは言いながらも学校耐震整備などの継続事業や、防災・減災対策等の当初から早急に予算計上しなければならない、影響の出る新規事業についても、今回の当初予算に組み入れたと述べられています。誰から見ても、誰が判断しても、平成25年度一般会計当初予算は、骨格予算ではなく、本格的な当初予算編成そのものだと考えます。

今回編成した新年度当初予算を骨格予算だと言い切る市長の考え方に、私には理解しがたく、そこで骨格予算に対する市長の基本的な考え方をまずお聞かせ願いたいと思います。

輪内中学や宮之上小学校の耐震整備が行われる中で、今後予測される大型事業として、3保育園の移転整備や九鬼・曾根地区での地区センター機能を持ち合わせたコミュニティーセンターの整備、公共施設の耐震整備及び防災・減災対策等の取り組みに多額の予算が必要とされます。

平成24年度の当初予算時に11億2,730万円あった財政調整基金も、平成25年の当初予算編成時に6億318万3,000円を繰り入れたために、現在、市の財政調整基金が6億9,034万7,000円と激減し、今後においても非常に厳しい財政運営が余儀なくされ、市財政の危機が間近に迫りつつあるものと私は理解をしますが、いかがでしょうか。市長の見解と今後の実施計画と整合する4年間の財政見通しを詳しくお示し願いたいと思います。

次に、岩田市長が述べられました平成25年度所信表明の中から、道の駅と地域産業の振興等について、市長の考え方をお聞きします。

道の駅の整備につきましては、申すまでもなく、平成23年5月20日に第1回の道の駅検討委員会が、平成25年度の建設を目指し、議会、商工会議所、行政、民間の23名構成でスタートし、平成23年12月の第5回検討委員会で道の駅の場所が尾鷲南インター付近と決定し、議会や市民からは場所決定とともに

非常に強い反対の意見が出る中、尾鷲道の駅策定予算費が平成24年度当初予算で可決し、昨年末に完成し、市は、道の駅基本計画書を議会に示し、理解を求めましたが、計画書は絵に描いた餅で、肝心の国土交通省や南インター付近に設置する駐車場や防災拠点等の具体的な計画が全く提示されていなく、また、フルインター化の問題も残されていることから、議会としては、一つの意見は、尾鷲南インターのフルインター化が道の駅建設の条件である意見も出されましたが、まずは市長みずからが市民の前に出向き、市民の道の駅建設に対する意見や考え方を聞く場を持つことが必要だとの意見が出て、市長が今回、市内15カ所で310名の市民を集めて行った市政懇談会であります。

道の駅につきましては、議員間でも賛否両論があるように、市政懇談会の中でも当然に賛成、反対の意見が出されました。私は、地元向井地区で聞かれた懇談会にしか出席をしておりませんが、積極的に道の駅建設に賛成する意見が、余り多く聞かれなかったのが現実でした。私自身、ふだんから市民との話し合いの中でも、南インターに整備しようとする道の駅に関しましては、やはり市民間ではほとんどと言っていいほど、積極的に賛成する意見を聞いたことがないのが現実であります。

私は、尾鷲南インター付近に国土交通省が計画をしている防災的な機能を持つ施設や駐車場の建設に対しては、反対する気持ちは毛頭なく、できる限り尾鷲市として協力できる部分については、積極的に協力すべきであろうとの考えは、今も何ら変わっておりません。しかし、策定をいたしました基本計画書には、国の具体的な整備計画が示されていなく、道の駅を国の事業と一体化した整備を行うのに議会や市民の理解を求めるにしても、示される資料や国との関連の具体的な情報が余りにも少な過ぎるのが、理解しがたい大きな理由の一つだと考えます。

そこで、国土交通省が尾鷲南インター付近約8,000平方メートルに整備しようとして計画している防災拠点や駐車場等の整備計画案がいつごろ示されるのか、改めてお聞きをしたいと思います。尾鷲南インターと北インターの未開通部分がつながった場合、現実問題として今の南インター付近にフルインターをつくるのが可能なのか、また、尾鷲市として南インターのフルインター化について、国土交通省との協議はどこまで進んでいるのかもあわせてお聞きをしたいと思いません。

岩田市長が市長に就任してから3カ月後の平成21年10月1日の住民基本台帳による市の人口が2万1,477人、世帯数では1万140世帯あったのが、

今年の1月の調査によりますと、人口が2万298人、そして、世帯数が9,997世帯と割り込みました。昭和50年から1万世帯以上あった世帯数が、ついに1万世帯を割り込み、人口を見ても1,179人の市民が減少し、世帯数においても140世帯が減少しておるのが現状でございます。約1年間で人口300人、世帯数も約40世帯が減少しているのが今の尾鷲の姿で、当面は今のままの推移で減少が続くものと考えております。

当市の人口問題について、既に鬼籍に入っている元尾鷲市長の伊藤允久氏は、平成12年4月に尾鷲市長に就任した翌年の平成13年の地元新聞正月版で、私の市長としての仕事は、尾鷲市の人口を3万人にふやすのが私に課せられた至上命令だと述べられておりました。しかし、伊藤元市長の思いとは裏腹に、結局は市長任期の8年間で、市の人口が2万4,650人あったものが、平成20年の10月には2万1,911人と減少してしまいました。しかし、伊藤元市長の将来の尾鷲市を思う強い気持ちのあらわれが、人口3万人構想となったものだと思っております。今後におきましても、市の将来人口推移や人口構造を基本とした尾鷲市全体のまちづくりを行うべきだと考えますが、いかがでしょうか。

それでは、最後に、地場産業の振興策について市長の考え方をお聞きします。

市長は所信表明で、高速道路の開通には尾鷲を発信する絶好のチャンスであることから、地元の魅力を高め、その情報を効果的に発信する施策を講ずる必要があると述べられておりますが、市長の言う地元の魅力とは一体何を指し、一体どのように、尾鷲市として何に力を入れ、何を具体的に進め、尾鷲の魅力をどのように発信しようと考えているのか、明快にお答えを願いたいと思います。

また、商工観光産業の振興として、企業立地法に基づき平成24年11月に、産官学団体が、尾鷲・紀北地域産業活性化協議会の取り組みについての報告をされておりますが、以前の平成19年にも企業立地法に基づき、平成19年度から24年度までの6年間の尾鷲市地域産業活性化計画を策定しております。具体的な数値目標、地域における集積業種全体の付加価値額、現状の14億円を終了後の24年度に17億円とする、伸び率21%を見込む報告書が出されておりますが、その実際の結果はどうであったのか、お答え願います。また、尾鷲市として、新たな集積産業の誘致や計画についての具体案があるのであれば、お聞かせ願います。壇上からの質問といたします。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

〔市長（岩田昭人君）登壇〕

市長（岩田昭人君） 骨格予算につきましては、政策的経費を極力抑え、義務的経費を中心に編成することが本位であります。私の任期は7月25日となっており、新たな補正予算の編成が任期後になれば、5カ月間の空白が生じてしまいます。そのことから、継続事業や市民生活に直結し、年度当初からの執行が必要な事業について計上したもので、特に防災については、間断なく対策を講じていく必要があります。エリアワンセグシステム基盤整備工事、クリーンセンター施設能力増強工事及び輪内中学校、宮之上小学校の改築工事を合わせた事業費で、9億176万円となります。これらの事業を計上したことにより、前年度を上回る予算となっております。なお、その他の投資的経費につきましては、市長改選期までの事業量を見込み、減額した予算としております。

4年間の財政見通しについて答弁いたします。

南議員から御指摘のとおり、防災・減災対策を初め、今後予定されている保育園の移転整備、公共施設の耐震整備等を推進していくに当たり、多額の予算が必要となってまいります。

そうした状況の中で、まず、歳入の見通しについてですが、市税では4年前の平成21年度当初予算で23億4,851万3,000円あったものが、平成25年度当初予算で21億9,531万4,000円となり、1億5,319万9,000円、率にして6.5%減少しております。今後の見通しについても、人口減少、景気の低迷などにより、市税収入が減少していくものと予想されます。このほか、地方交付税がありますが、平成27年度には国勢調査があり、人口減少による減額要因も懸念され、厳しい状況が予想されます。

次に、歳出の見通しについてですが、人件費では、従前からの定員適正化計画に基づく人員削減等により減少していくものと予想されます。その一方で、社会保障費としては紀北広域連合分担金、後期高齢者医療事業特別会計操出金等が増加していくものと予想されます。また、公債費では、現在約11億5,000万円ですが、平成27年度から過疎対策事業債の元金償還が開始することから、約12億円程度を推移することになると予想されます。普通建設事業費では、平成26年度以降も、宮之上小学校第2期改築工事を初めコミュニティーセンター等の公共施設の耐震整備が控えていることから、事業進捗等と連動し、推移する見通しであります。

ここ4年間の財政見通しとして、特に注視しなければならない点は、市債の後年度負担への対応であります。市債の残高については、現在約107億円ですが、

平成25年度からの第三セクター等改革推進債の元利償還の開始、平成27年度からの過疎対策事業債の元金償還が始まり、市債残高はおおむね110億円台を推移していくものと見込まれます。また、財政調整基金についても楽観視できず、数億円ベースになっていくのではないかと考えられます。

今後このような厳しい財政状況の中であっても、選択と集中により、より優先度の高い事業、市民サービスに直結する事業に力を注いでいかなければなりません。

次に、道の駅につきまして答弁いたします。

道の駅には幾つかの機能を持たせる必要があります。南議員がおっしゃられるように、防災機能を有する施設として、待避所やUターン路も、道の駅の機能の一つです。本市では、平成25年度には熊野尾鷲道路Ⅰ期線が開通し、同じくⅡ期線も近い将来接続されることから、高速道路の延伸に伴う地域活性化対策を講じなくてはなりません。

これを推進していく上で、高速道路を利用して増加するであろう来訪者を適切な位置でキャッチすることが重要となります。この場合、尾鷲南インターは幹線道路である国道42号との結節点であることや、熊野尾鷲道路Ⅱ期線が供用を開始され、大都市圏から1本の高速でつながれた場合にストロー現象への対応が必要であること、また、南議員のおっしゃられる待避所やUターン路の設置場所もあわせて考えた場合、やはり尾鷲南インター付近が、道の駅の設置箇所として好適地ではないかと考えます。

道の駅に多くの機能をあわせ持たせることが、より利便性の高い施設となり、来訪者だけでなく、市民の皆さんがより多く利用していただける施設となると考えております。そのためには、単独型で整備を行うのではなく、一体型により国土交通省と尾鷲市の役割分担を行い、ふだん使いだけでなく、発災時にも使い勝手のよい施設の整備を行いたいと考えております。

施設の用地を含めた規模、機能が確定するのは、国土交通省と協議を行った後となることから、明確にお示しできませんでした。そのため私どもといたしましては、できるだけ早く国土交通省に正式要望を行い、次の段階に移行していきたいと考えております。

尾鷲南インターのフルインターに対しての提案に関しましては、道の駅の設置に係る要望とあわせ、行いたいと考えています。一体型の整備についての要望や、フルインター、また、サービスエリア、パーキングエリアと複合的に協議をお願い

いしたいと考えております。

次に、尾鷲の魅力発信などに関しましては、高速道路の開通、伊勢神宮の式年遷宮、熊野古道の世界遺産登録10周年など、一つの節目を迎えようとしております。これまでの取り組みは、第5次尾鷲市総合計画後期基本計画の中で、丸ごと尾鷲を売り出すプロジェクトとして、観光と物産、地域を一体として売り出していく事業を展開してまいりました。

これらの中には、海洋深層水事業、食による魅力づくりや魅力ある魚のまちづくり、グリーンツーリズム推進事業、おわせ輪内地区まるごと振興協議会における輪内地区を中心とした各地区での魅力づくりなど、この数年間でさまざまな魅力づくりに取り組んでまいりました。これらの取り組みには、全て主体となる人や組織が存在し、これは尾鷲オンリーワンのもので、どこにも負けるものではありません。これらの地域資源、尾鷲の魅力をさらに情報発信してまいりたいと考えております。

次に、尾鷲・紀北地域産業活性化基本計画についてであります。

本市では、平成19年度に尾鷲市地域産業活性化基本計画を策定し、具体的な成果目標として、集積業種全体の付加価値額について、計画期間終了時の平成24年度には17億円、伸び率で21%としております。公表されている最新の平成22年度工業統計調査では、本市の付加価値額は約25億4,000万円となっており、現行計画の目標を既に上回っている状況であります。新規立地企業件数といたしましては、平成19年度の策定後に起こったリーマン・ショック以降の急激な投資マインドの後退もあり、立地を検討している企業との協議は行っているものの、新しい立地には至っていない状況であります。しかしながら、製品出荷額及び雇用者数についても、計画策定時から順調に伸びてきており、先ほども述べましたが、集積業種全体の付加価値額も目標数値を上回っております。この要因は、製造業の大部分を占める食料品製造業を中心に、順調な伸びを示していることが挙げられます。これは海洋深層水関連企業や既存企業の新工場建設が行われるなど、食料品製造業の伸び率につながったと考えております。

このように、結果として具体的な立地には至っていないものの、指定業種における事業の拡大が見られること、また、本市への高速道路が延伸され、企業立地に向けて大きなインフラが整備されることとなっていることから、このような状況を大きなチャンスと捉え、新たな計画を策定することといたしました。

今後、国の同意を得た上は、立地企業への設備投資減税や、工場立地法の特例

措置、農地転用手続の迅速化、立地支援などが図られることとなります。また、現在、海洋深層水を活用したアワビ、サツキマス等の陸上養殖を本格的に事業化させるべく、立地の規模を含め、事業者側において事業計画を検討していただいております。本市といたしましても、これまで取り組んできた実証試験養殖事業の成果も踏まえながら、事業化に向けて支援を行い、立地を実現させてまいりたいと考えております。

議長（三鬼孝之議員） 7番、南靖久議員。

7番（南靖久議員） 手短な答弁でありありがとうございました。

私、ラストの質問ということで、ほとんどが質問前に答弁を、ほとんど僕の質問要旨に対する答弁は、各議員の中でいただいていたということでございますので、今から角度を変えるわけにもいきませんので、また同じことを聞くのかという思いがありますけども、あえて再度この質問をさせていただきたいと思いません。

先ほど市長は、骨格予算については、当然選挙を控えておったが、どうしても早急にやっついていかないといけない事業費については組み入れたということで、他の予算については上げなかったということなんですけども、ここで私、まず指摘をしておきたいのは、例えばエリアワンセグだとか輪内中にかかわる問題は、債務負担行為でも認めている予算でございますので、当然予算計上すべきであったと思えますけども、特に宮之上小の整備事業については、6月9日、同日選挙があるわけですけれども、市長の任期が7月25日まで残されているということで、どういった結果になるかも知れませんけれども、岩田市長が当選するという仮定で話をすれば、私は特に宮之上小の事業費については、6月議会でも十分に予算計上ができたのではないかというような自分的な判断をしておるのが1点と、それと他の事業費は減額をしたと申されておりましたけども、あえて骨格予算に上げなかった他の事業とは、どういったものが残っておりますか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 学校の耐震等につきましては、まず、子供たちの安全安心等を考えますと、期間がやはり限定されてしまう部分があります。例えば夏休みとか冬休みに集中して行うような工事をやらなければなりません。そういったことを考えますと、やはりそれに向けての準備等もありますので、当初から上げさせていただいたということで、御理解を願いたいと思えます。

その他の骨格予算として落としたものについては、ほかにたくさんありますけ

ど、約2億円ぐらいあったようにございます。中身については、財政課長のほうから。

議長（三鬼孝之議員） 財政課長。

財政課長（川口拓也君） 主に今回肉づけのほうに回したというものにつきましては、投資的経費ということで、特に土木費を中心とした事業費については、まず市長任期までの期間の事業量を当初予算に計上し、その後については肉づけのほうで対応していくという措置をとらせていただいております。

議長（三鬼孝之議員） 7番、南靖久議員。

7番（南靖久議員） 宮小の予算についても、当然準備期間としてもやはりいろんな調査をしていくので、予算が必要になってくるかと思えますけども、宮小は債務負担行為ということで工期が十分ある事業だと考えておりましたので、僕はやはりできる限り、市長選挙の後でつけてもいい予算じゃないかなと今も思っております。

それと、財政課長が事業費で2億円、主に土木費のあれやったんですか、それこそ逆に僕はつけておいてもええぐらいじゃないかなと思いますけれどね。逆にね。そういう物の考え方をするのであれば。

いずれにいたしましても、今回の当初の骨格予算というのは、やはり僕から見て、かなり市長は選挙を意識した予算を組んできたなという思いがしておりますけども、いかがですか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 断じて市長選挙を前提とした予算を組んだつもりはありませんので、御理解を願いたいと思います。

議長（三鬼孝之議員） 7番、南靖久議員。

7番（南靖久議員） この骨格予算については、当然上がってきた予算ですので、この場で認める認めないの話じゃないと思いますし、予算決算委員会のほうでも十分審査ができることであるもので、またその場のほうで審査をいたしたいと思っておりますけども。

それと財政見通しについて、今、市長が、歳入、歳出と簡単に説明をさせていただいたんですけども、私としても、たしか平成19年でしたね、たまたま新聞があったんですけども、尾鷲市は21年以降が財源不足に陥るということで、本当に財政見通しを示した時期があって、当然14年に財政再建計画ということで、伊藤市長がかなり思い切った行政改革をして、いろんな経費の削減、人件費

の削減等、いろんな手だてをしたんですけども、それによってもなおかつ財源不足が7億生じると、平成23年には。そして、むしろ各学校の耐震整備が始まってくると、もっと厳しくなるだろうということで、この19年のとき予測されておったんですけども、幸か不幸か、幸なんですけども、かなり予測とは相反して、例えば19年なんか、財政調整基金が、確かに苦しかったけども6億円プールをしておりました。それと、20年には8億1,800万、21年には約7億9,000万、そして、平成22年からは12億円、23年が16億円と、かなり過疎債等の大きな尾鷲市としては、メリットの大きな指定を受けたというのも一つの功名かもしれませんが、財政的には思っていたより、尾鷲市はそう苦しくなかったなというのが、私の現実なんですけどね。

そういった意味で、今、市長に財政見通しを聞いたんですけども、いろんな事業がめじろ押しで、これでもか、これでもかというほど尾鷲市が押してきます。特に、防災・減災対策等になると、僕、とてつもない予算と経費と動力がかかってくると思うんですけどね。

財政見通しの中での財政調整基金のほうの数字が示されなかったということなんですけども、できたら財政課長のほうから、向こう4年間の財政調整基金の残額見込み等をお示しいただければと思うんですけども、いかがでしょうか。

議長（三鬼孝之議員） 財政課長。

財政課長（川口拓也君） 財政調整基金で今、議員がおっしゃられたように、この当初予算を編成後で、約6億9,000万円ということになっております。

本市の財政状況につきましては、やはり国の制度に大きく影響を受ける、そういう自主財源が少ないものですから、そのような脆弱な体質というのは、依然として過去から続いておるといふふうに思っております。

ただ、今後、この6億9,000万、これは、少なくともこの4年間ぐらいは維持できるんじゃないかなというふうには思っております。

議長（三鬼孝之議員） 7番、南靖久議員。

7番（南靖久議員） 今、財政課長のほうが、向こう4年間でも6億以上はどうかこうにか維持をしていくということですので、結構、ここ数年間でも9月決算時に積み立てがかなり、やっているんですね。多いときなんか、5億以上積んでおるときもありましたね、たしか。そういった意味では何とかしてやりくりがやっていけるのかなと思いますけども、現実的に尾鷲市の財政の弾力を示す財政力指数なんかも、0.39かそこらでしょう、たしか。そういった意味では、

財政力指数だけで判断すると、やはりかなり収支のバランスが悪く、非常に、これからの事業に対応していく上には厳しいのかなという思いがますます強くなっていくんですけども。

それと、きょうたまたま本を忘れてきたんですけども、尾鷲市の職員組合が昭和57年に『市財政「危機」の実態をさぐる』という、職員みずからが尾鷲の今後の財政を心配して出された本がございました。たしかその当時に出されておる本の財政力指数なんか、5.6か7ぐらいの財政力指数をはじいていたと思うんですね。当然税収も、幾分か税収があり、おまけに、火力3号機を誘致しようということで、尾鷲市のまち全体が、賛成、反対でまちを二分するいろんな論争がなされた時期でもありました。

たしかその『市財政「危機」の実態をさぐる』を出されたときでも、到達点というのが、火力3号機を誘致して、ここで尾鷲の都市機能を維持していこうと、当時の長野市長さんだとか、尾鷲漁協組合の白紙撤回等ですか、かなり議論を重ねた上でできたのが、世界で最後の火力発電所と言われた50万キロワットの尾鷲3号機なんですけどもね。先にいろんな希望が見えている段階でも、財政危機宣言というのを尾鷲市が、あえて職員組合が、真剣に尾鷲のことを考えようとしたことに対しては、僕は、当時の職員の皆様は本当に尾鷲のことをよく心配しておったんだなということで、きのうも本を読みながら改めて感心したんですけどね。

それでも、これからの将来の尾鷲市というのは、平成33年度になると、もう人口も2万6,173人ですか、高齢化率も四十四、五%にはね上がるということで、本当に見通しとしては、非常に苦しい見通ししか出てこないと思うんですね。

そういった意味で、やはり財政の健全化というのは、一番市民にとっても、市民アンケートの中でも、僕、冒頭でお話しさせていただきましたけども、やはりお年寄りの方が尾鷲の財政を憂えておる市民が多いということでございますので、できるだけ財政については、常に議会を通し、市民の前に堂々と情報を公開していくというような手だてをとっていただきたいと思いますので、それについてはどうですか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） いろんな形で財政を眺めていかならんと思っています。財政力指数とか、あるいは公債費とか、基金残高とか、いろんな角度から検討して尾

鷺市の、健全ということとはとても言えないんですが、要するに自主財源が少ないわけですので、何とかして、これからいろいろ、山積みとなっておりますいろんな施設整備とか、そういったものに対応していかなければならんと思っていますし、そのためには逐一市民の皆さん、議員の皆さんにも財政状況を示していくという必要があると思っておりますので、今後そのように努めさせていただきます。

議長（三鬼孝之議員） 7番、南靖久議員。

7番（南靖久議員） 財政面のほうは終わりたいと思います。

道の駅について、僕、南インターの、国土交通省が計画をしている防災拠点だとか、パーキングについては、本当に尾鷲市としてむしろ積極的に協力をしていくべきだと、全くその気持ちは変わらないし、恐らくこれからもその方向で僕は考えておるわけでございます。

ただ、この道の駅につきましては、当初の計画スケジュールと随分と誤差が生じてきたんですね、はっきり。副市長、そうでしょう。たしか向井の説明会のときに、一体いつごろ完成するんですかというような問いに、今から5年後ということで、平成30年に道の駅が開設するのかなとあって、私は初めてそのとき、約5年後という開通のめどを頭へ浮かべたわけなんですけども。

そうなってくると、5年たつと、当然紀北町に至っても熊野市さんに至っても、随分と仕掛けもかなり完成、熊野市さんに至ってはもう1億を予算化して、広域化道路の完成を、日本一の花火というよりか、余談ですけども、熊野の花火というのは、音響は日本一だそうですね、鬼ヶ城から打つ音響は。そういった意味で、熊野市は花火をメインとした開通祝いをするようでございますけどね。それと、鬼ヶ城も、ことしの夏ですか、約300席のレストランが7億、8億かけて完成します。

それと、新聞しか見ていないんですけども、三浦にはパーキングエリアも完成し、紀北町として、物産販売と防災機能を兼ねた3億数千万のことを実行計画として出ておりますし、天狗倉山を越えた馬越峠の向こうには、権兵衛の里に温浴施設をつくるといったような、もう手だてが見えてきておりますし、そういった中で5年後、南インターに、そういった一般販売をつけた道の駅をつくっても、私は余り利用しないんじゃないかなと、逆に負の遺産になってしまうんじゃないかなというような思いがしてなりません。

そういった意味では、尾鷲市の身の丈に見合う道の駅、あるいは、情報を発信することは大変必要なことでございますが。そういった意味でも、やはりそうい

ったポイント、ポイントでは、僕は情報を発信する意味では、そこまでは全く反対するつもりはございませんので、道の駅については大きな絵じゃなしに、もっとコンパクトな絵を描いて取り組んでいくほうが、私はより一層市民の納得した理解が得られるんじゃないのかなという思いがするんですけれども、いかがでしょうか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 規模等につきましては、やはり財政的な問題もありますし、あるいは採算等の話もありますので、十分心して考えていかなきゃならないと思っています。ただ、防災の機能から言いますと、ある一定の大きさが必要なのかなという思いもしています。しかし、その防災の場合であれば、それは非常時の使用だけでありますので、そのところをふだん使いとどのようにうまく合わせていくのかということに知恵は絞らんのかなと思っています。

議長（三鬼孝之議員） 7番、南靖久議員。

7番（南靖久議員） 僕も防災面についてはやはり、市役所として備えることは備え、国として備えることは備えていただいて、お互いにそれこそ一体化した防災機能を備えた場所にすれば、最もいいなというような感じがしておりますし、ただ、あそこが尾鷲市の防災拠点ですよじゃなしに、市内ではいろんなこと、減災対策もせんなんし、それはそれとして一つの国との一体化の防災拠点施設として僕は認識をしておきたいと思っておりますので、そこが全てじゃないということだけ、当然の形だと思えます。

時間の都合上、中途半端な話ですみませんけれども、次に、今の尾鷲の魅力とは何ぞやということで、これについては、午前中に三鬼和昭議員さんが、やはり尾鷲は海だと、魚だと、魚食を中心としたスローフードが今の尾鷲に似合う、尾鷲市の魅力づくりじゃないのかなという、お二人のやりとりを聞いてスローフードという言葉が思い浮かべたんですけどね。

このスローフードにつきましては、後ろの奥村公室長なんかも、ちょうど夢古道をつくる前に、当時の高芝課長が、これからは尾鷲はスローフードを中心に売り出していくんだということを2年ぐらい叫ばれましたけども、ここ最近、尾鷲市ではスローライフだとかスローフードといったような声が、めっきり聞かなくなりまして。そういった意味では、私はやはり尾鷲は、今も市長が食、やはり尾鷲の魅力はおいしい魚なんですね。

僕は先般、稲沢市のはだか祭を初めて見学させていただきまして、いろんな写

真を写すマニアの方と3時間余り、いろんな地域の情報交換をさせていただいたら、その方もたまたまに魚釣りへ昔来ておったと。尾鷲といたら、サンマずしがうまいなって、やはり食の話が出るんですね。

そういう意味では、もっともっとおいしいのがありますし、特に刺身なんか、虎の尾という唐辛子なんかつけると絶品ですよと、常に虎の尾を売り込んでくるんですね、僕の場合はどこに行っても。そういった意味では、今、伊勢のおかげ横丁のほうでも、これは市長のおかげで2回ばかり朝市のほうへ出させてもらっていましたが、今、唐辛子を扱っている店が、ここ最近虎の尾を聞かれることが多くなりましたというようなことで、若干虎の尾について、伊勢のほうでもぼちぼち知名度が上がってくるというような感じがいたしますので、ぜひとも食を、これからの尾鷲の施策の一つとして売り出していきたいなと思うんですけども。

やはり食を売るには、今の尾鷲漁港を、いろんな環境整備がある意味では必要になってくると思うんですね。そういった意味では、あえて重複して聞きませんが、尾鷲市としていろんな環境整備については最大の協力はしていくべきだなと強い思いもしておるんですけども、その点についてはどうですか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 尾鷲市を食のまちとしてぜひ売っていききたいというふうに思っております。尾鷲の魚と虎の尾を組み合わせたら、一つの売りに十分なり得ると思っておりますので、またご協力をお願いします。

つきましては、やはり尾鷲の港の環境整備というのが、ソフト面からもハード面からも必要となってくるというふうに認識しております。市としても最大の支援をさせていただきたい。

平成24年度につきましては、製氷・貯氷施設、それから、クレーンの整備について支援をさせていただいていますし、鳥の被害についても、今、実験的な試みも、漁協とあわせてやらせていただいておりますので、徐々にではありますけれども、環境整備に努めていきたいと思っておりますし、県のほうにも強く働きかけをしていきたいというふうに思っております。

議長（三鬼孝之議員） 7番、南靖久議員。

7番（南靖久議員） 港の環境整備について、先般長野組合長とたまたまお話しする機会がございまして、やはり組合長は組合長としての思い、尾鷲の漁業の思いというのは人一倍強い方でございまして、ここ最近、定置網なんか、冬から全くと

れていないんですね、尾鷲のほうは。先般、九鬼でブリが3,500本ばかり上がったということで、ああ、よかったなと心から喜んでおるんですけども、やはり組合長いわく、これからの漁業の生き残りには、員外船を誘致していかなければ難しいだろうというような切実な思いで、三鬼和昭さんも、地のブランドマグロ、尾鷲マグロをつくろうといったようなお話がございましたけれども、全く私も同じ考えでございまして。

やはり員外船を誘致するに当たってはそれなりの、高額になるのかわかりませんが、港湾ということで、県のほう、国のほうでも、市長にお力を入れていただきたいんですけども、やはり員外船を誘致できるような港、船着き場をつくっていただきたいなとまず思っております。

それと組合長は、今の漁業施設が耐震がないということで、できたら耐震整備をしていただいて、2階、3階じゃなしに、いろんな施設も改造できますし、特に屋上の3階のほうなんかは、津波避難タワー的な要素も持てるような施設にぜひほしいなというような強い思いも持っておりますので、ぜひとも一度、尾鷲漁協のほうに足を運んでいただいて、一度組合長とじっくり話をしていくほうがいいのではないかという思いがいたしますけども、いかがでしょうか。

議長（三鬼孝之議員） 市長。

市長（岩田昭人君） 員外船誘致はもちろん必要でありますし、あわせて、尾鷲のある事業者の方が船を持たれて、近海のはえ縄をやられるというふうに聞いております。それから、三木浦の船主の方が、スラリーアイスを使用したマグロを、尾鷲にある一定の量を水揚げされるというふうに聞いております。そういったものを員外船の誘致とあわせて、特殊なマグロにつきましては、何とか尾鷲マグロ、これは言い方はいろいろあると思いますけども、ブランド化していきながら、PRし、あるいは地域で活用してもらうことを考えていくことを、全面的な支援をさせていただきたいと思っておりますし、施設についても、随分老朽化しておりますので、この辺は港湾管理者の県と一度話もしなけりゃならんと思っておりますし、それから、水産関係の県の組織ともぜひ近いうちに話を進めたいと、どういような方法があるのか相談をしたいと思っておりますし、近いところでは、いろんな市場が整備されるという話も伝え聞いておりますので、そういった先行事例も参考にしながら、何とか対応させていただきたいと思っております。

議長（三鬼孝之議員） 7番、南靖久議員。

7番（南靖久議員） ぜひともそうしていただきたいと思っておりますし、ぜひ一度組合長

とも膝をつき合わせて、じっくりいろんな将来の尾鷲港の整備等についても、お話をさせていただくことをお願いいたしたいと思います。

先ほど、近隣では遊木漁協組合がH A C C P対応の魚市場を整備しているということでございますので、それと熊野漁協組合が、高速が開通すれば、花の窟にですか、直売にして何か出すんだとかいうて、かなりいろんな頑張りの声が聞こえてくるんですけども、ぜひとも尾鷲市としても、こういった魚食を売り出す上においても、やはり尾鷲の新鮮な、前浜で揚がる魚というのは、やはり最も尾鷲に来てくれる人に魅力のある食でございますので、そういった意味で、港全体の環境整備も視野に入れて考えておいていただきたいと思います。

まだ聞きたいことがあったんですけども、時間が押し迫ってきましたので、私の質問を終わらせていただきたいと思います。

私どもも、5月30日で全員が失職をするということでございますので、継続した議員は一人もいないということでございますので、4年間いろいろな意味でありがとうございました。お世話になりました。

議長（三鬼孝之議員） 答弁はよろしいですか。

7番（南靖久議員） よろしいです。

議長（三鬼孝之議員） 以上で通告による一般質問は全て終了いたしました。これをもって一般質問を終結いたします。

以後、会期日程のとおり、あす7日木曜日には午前10時より生活文教常任委員会を開催していただきますので、よろしく願いをいたします。

それでは、本日はこれにて散会いたします。

〔散会 午後 3時14分〕